

第2章

調査結果

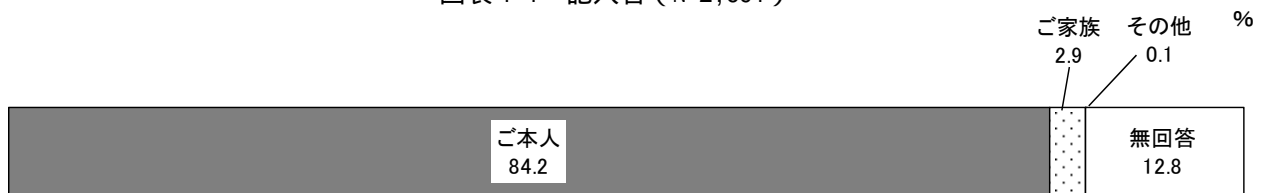
- I. 一般高齢者調査
- II. 居宅サービス利用者調査
- III. 第2号被保険者（40歳～64歳の方）調査
- IV. ケアマネジャー調査
- V. 介護保険サービス事業所調査

I. 一般高齢者調査

【調査票の記入者】

記入者は、「ご本人」が84.2%、「ご家族」が2.9%であった（図表 1-1）。

図表 1-1 記入者（N=2,691）



1. ご本人のこと

(1) 性別

問1 あなたの性別は？（あてはまる番号に1つ）

回答者は、「男性」が41.1%、「女性」が58.3%であった（図表 1-2）。

図表 1-2 性別（N=2,691）

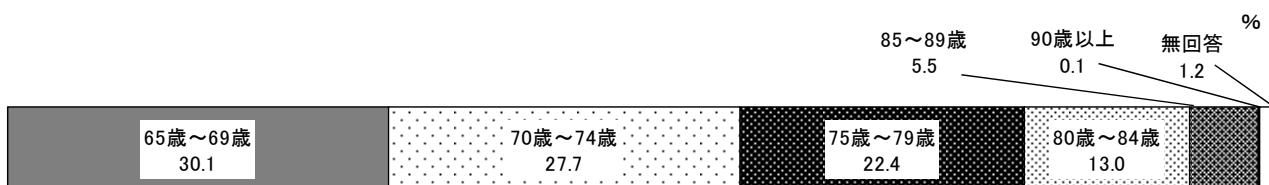


(2) 年齢

問2 あなたはおいくつですか？ 平成22年11月1日現在の年齢でお答えください。

回答者の年齢構成は、「65歳～69歳（30.1%）」と「70歳～74歳（27.7%）」を合わせた前期高齢者が約6割、75歳以上の後期高齢者が約4割であった（図表1-3）（図表1-4）。

図表1-3 年齢（N=2,691）



図表1-4 年齢（性別）

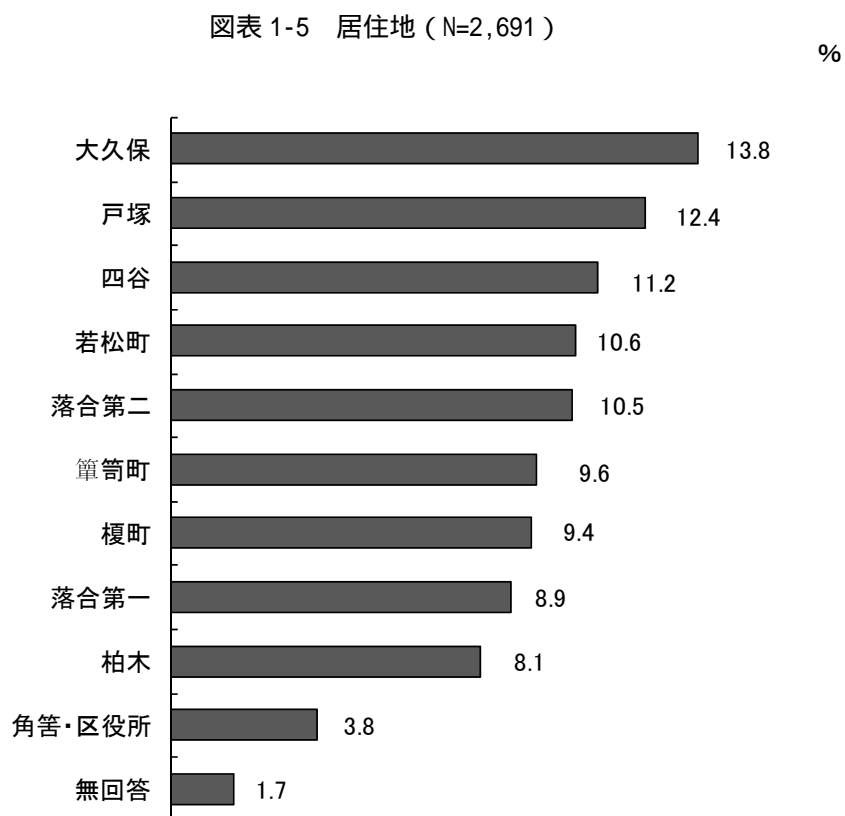
								(%)
		65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	合計
性別	男性 (N=1,102)	30.0	28.8	22.5	13.2	5.4	0.1	100.0
	女性 (N=1,553)	30.8	27.5	22.9	13.1	5.6	0.1	100.0

(3) 居住地

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか？（あてはまる番号に1つ）

回答者の居住地（特別出張所管内）は、「大久保（13.8%）」が最も多く、続いて「戸塚（12.4%）」、「四谷（11.2%）」の順であった。

最も少なかったのは、「角筈・区役所（3.8%）」であった（図表 1-5）。



(4) 世帯構成

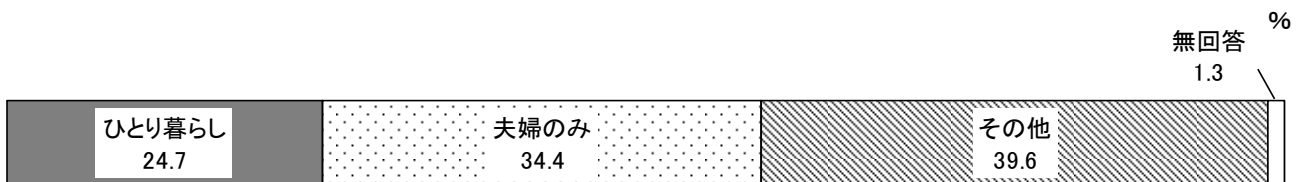
問4 あなたは、ひとり暮らしですか？ それとも夫婦のみでお暮らしですか？
 いわゆる二世帯住宅や同じ敷地内で別の棟に住んでいる場合は、同一世帯としてください。
 (あてはまる番号に1つ)
 また、あなたを含めた世帯の人数をご記入ください。

世帯構成は、「ひとり暮らし」が24.7%、「夫婦のみ」が34.4%、「その他」が39.6%であった(図表1-6)。

また、「その他」と答えた人に世帯の人数をたずねた。

「その他」の世帯人数は「3人(39.2%)」が最も多く、次いで「2人(26.2%)」であった(図表1-7)。

図表 1-6 世帯構成 (N=2,691)



図表 1-7 世帯人数 (N=1,022)



(4-1) 同居者の年齢

問4-1 同居されている方はおいくつですか？ (あてはまる番号に1つ)

「ひとり暮らし」以外の世帯における同居者の年齢について、「全員65歳以上である」世帯は、44.7%であった(図表1-8)。

(※ひとり暮らしと合わせた高齢者のみ世帯は、全体で57.7%であった)

図表 1-8 同居者の年齢 (N=1,992)



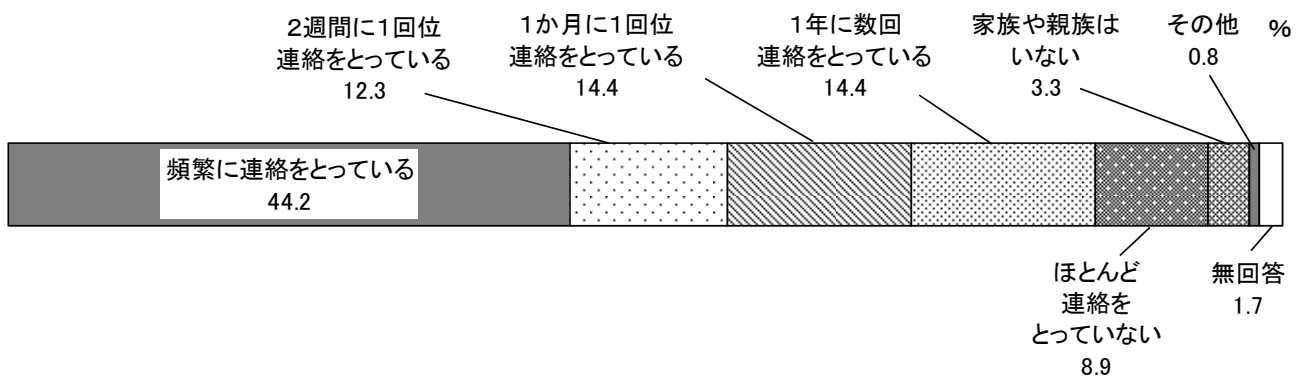
(4-2) ひとり暮らし高齢者の状況

問 4-2 あなたは、ご家族やご親族と連絡をとっていますか？（あてはまる番号に1つ）

問4で「ひとり暮らし」と答えた人にたずねた。

家族や親族との連絡頻度についてみると、「頻繁に連絡をとっている（44.2%）」「2週間に1回位連絡をとっている（12.3%）」と回答した人を合わせると約6割であった。一方で「ほとんど連絡をとっていない」は8.9%、「家族や親族はいない」は3.3%であった（図表 1-9）。

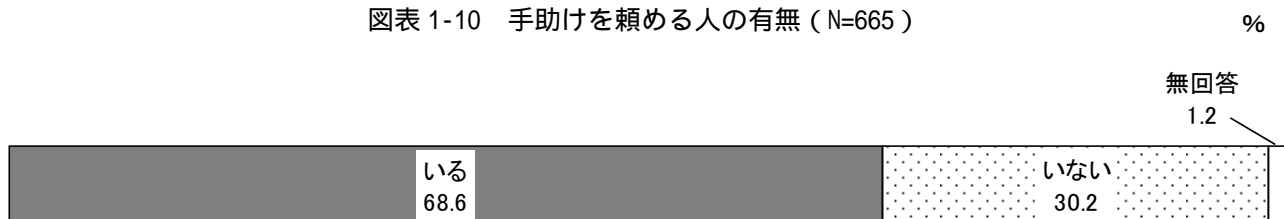
図表 1-9 家族や親族との連絡頻度（N=665）



問 4-3 あなたには、普段の生活で困った時に、近所（30分以内程度の距離）に手助けを頼める人がいますか？（あてはまる番号に1つ）

ひとり暮らしの方で、普段の生活で困った時に近所に手助けを頼める人が「いる（68.6%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-10）。

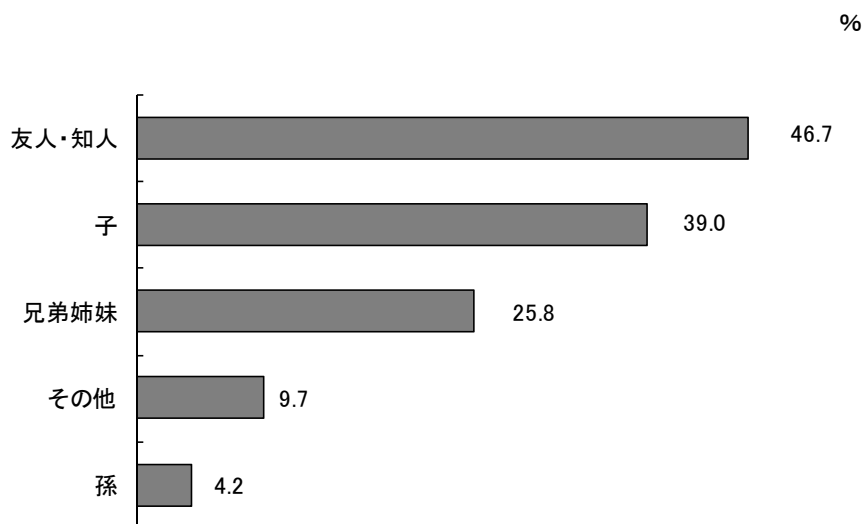
図表 1-10 手助けを頼める人の有無（N=665）



問 4-4 手助けを頼める人はどなたですか？（あてはまる番号すべてに）

手助けを頼める人は、「友人・知人（46.7%）」が最も多く、続いて「子（39.0%）」、「兄弟姉妹（25.8%）」の順であった（図表 1-11）。

図表 1-11 手助けを頼める人（複数回答）(N=454)

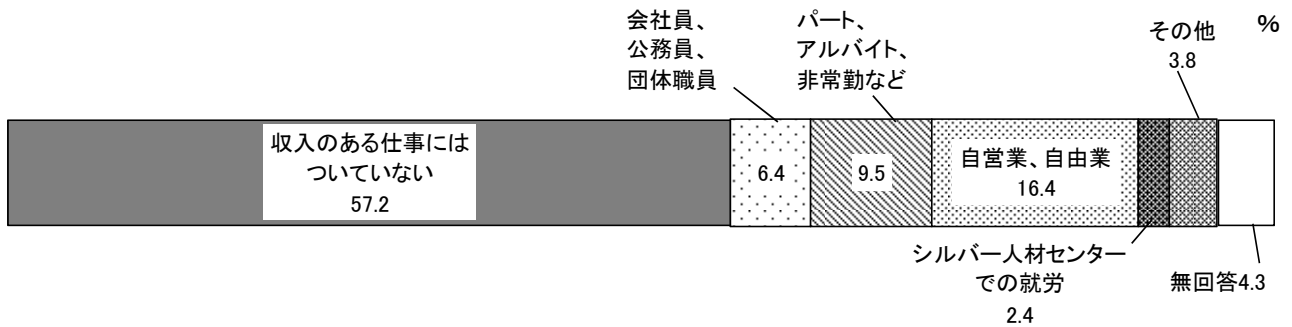


(5) 職業

問5 あなたは、収入のある仕事についていますか？（あてはまる番号に1つ）

職業について、「収入のある仕事にはついていない（57.2%）」と回答した人が約6割であった。一方収入のある仕事についている人では、「自営業・自由業（16.4%）」が最も多く、次いで「パート、アルバイト、非常勤など（9.5%）」であった（図表1-12）。

図表 1-12 就労状況（N=2,691）



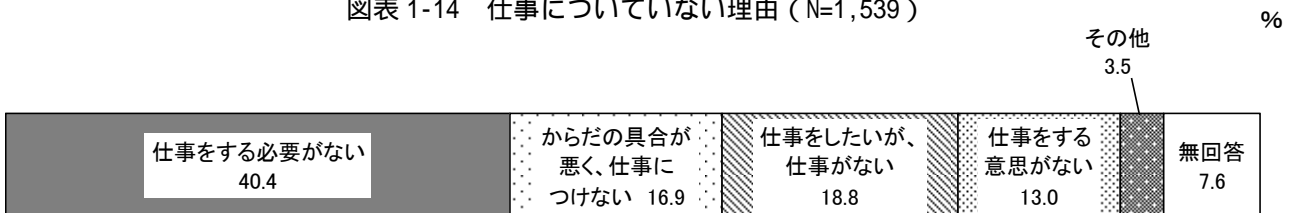
図表 1-13 就労状況（年齢別）

		収入のある仕事には	会社員・公務員・団体職員	パート・アルバイト・非常勤など	自営業・自由業	シルバー人材センターでの就労	その他	合計 (%)
年齢	65歳～69歳 (N=793)	46.3	10.7	16.9	21.1	2.0	3.0	100.0
	70歳～74歳 (N=723)	57.0	6.8	10.8	18.1	2.9	4.4	100.0
	75歳～79歳 (N=574)	71.3	4.0	4.7	13.6	3.1	3.3	100.0
	80歳～84歳 (N=325)	73.5	2.5	3.4	13.8	1.8	4.9	100.0
	85歳～89歳 (N=135)	73.3	3.7	3.7	13.3	0.7	5.2	100.0
	90歳以上 (N=3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問5-1 仕事についていない理由は何ですか？（あてはまる番号に1つ）

仕事についていない人にその理由をたずねたところ、「仕事をする必要がない（40.4%）」が最も多かった。一方「仕事をしたいが、仕事がない（18.8%）」という人は、約2割であった（図表1-14）。

図表 1-14 仕事についていない理由（N=1,539）

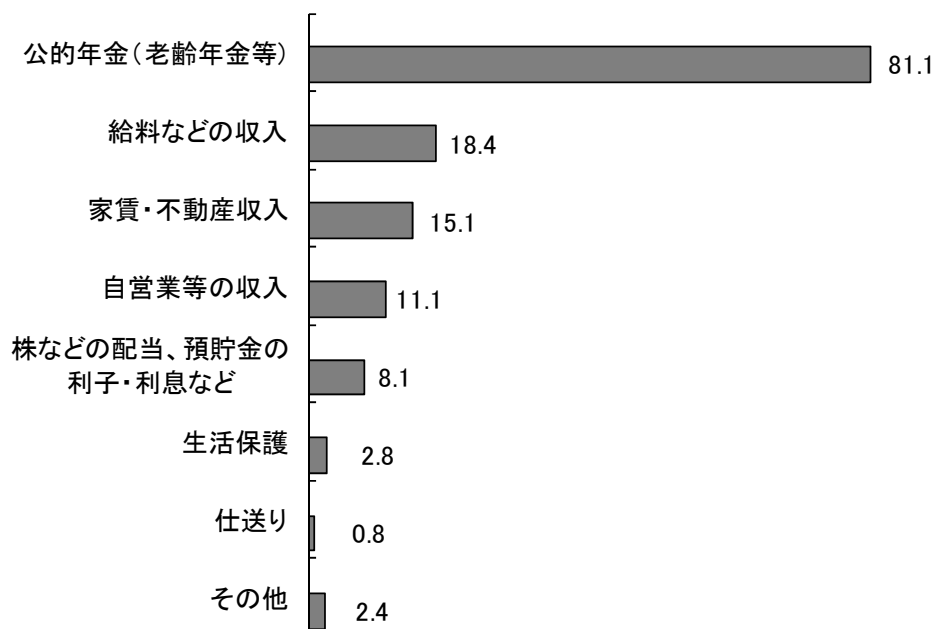


(6) 収入源

問6 あなたご本人の収入源はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

本人の収入源は、「公的年金（老齢年金等）（81.1%）」が約8割であった（図表1-15）。

図表1-15 収入源（複数回答）(N=2,620)

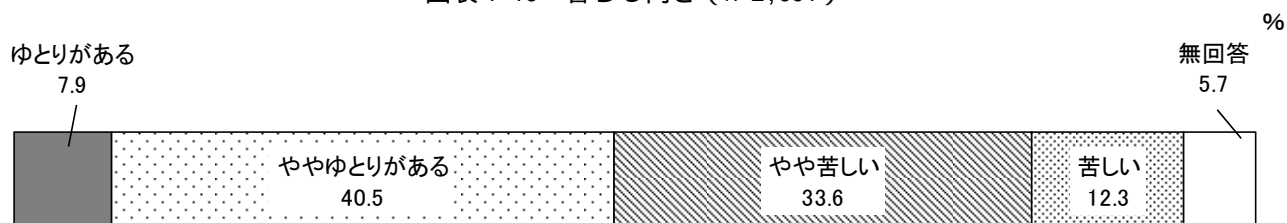


(7) 暮らし向き

問7 現在の暮らし向きはどうか？（あてはまる番号に1つ）

現在の暮らし向きは、「ややゆとりがある（40.5%）」と回答した人が最も多く、次いで「やや苦しい（33.6%）」であった（図表1-16）。

図表1-16 暮らし向き (N=2,691)

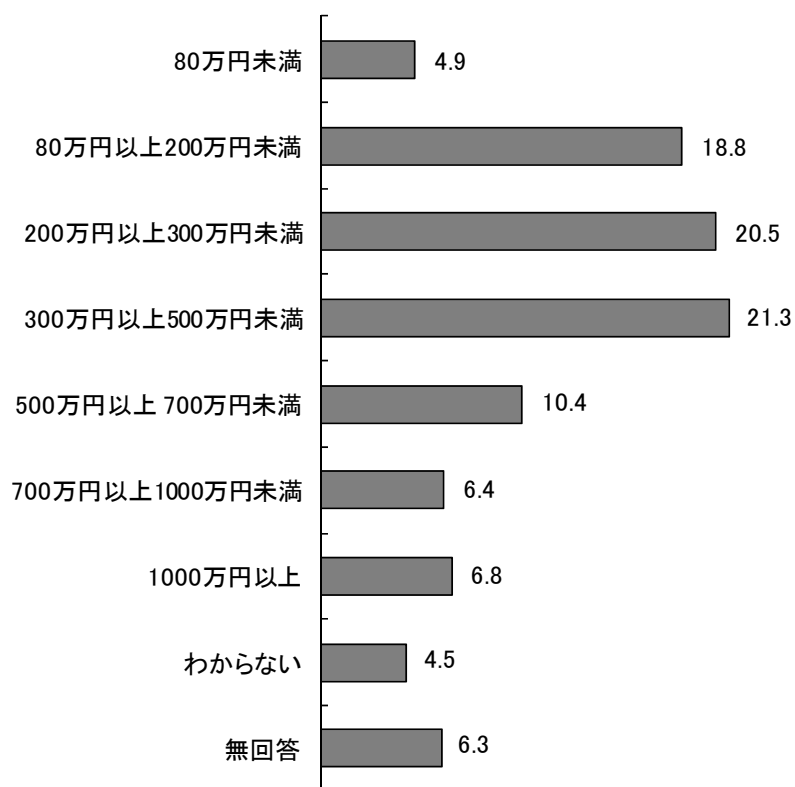


(8) 世帯収入

問8 昨年1年間の、あなたとご家族の年間収入(税込)総額はどれくらいですか?
(あてはまる番号に1つ)

本人と家族の年間収入は、「300万円以上500万円未満(21.3%)」が最も多く、次いで「200万円以上300万円未満(20.5%)」であった。また「80万円未満」は4.9%であった(図表1-17)。

図表1-17 世帯年収(N=2,691)



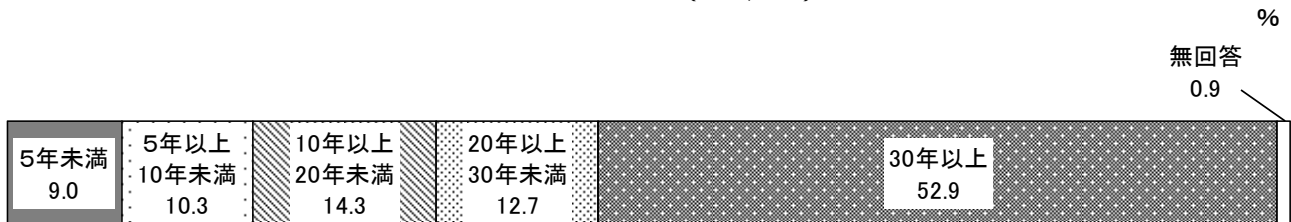
2. 住まいのこと

(1) 居住年数・住居形態

問9 あなたは、現在の住居に、何年住んでいますか？（あてはまる番号に1つ）

居住年数は、「30年以上（52.9%）」が5割以上であった。一方「5年未満」は9.0%であった（図表1-18）。

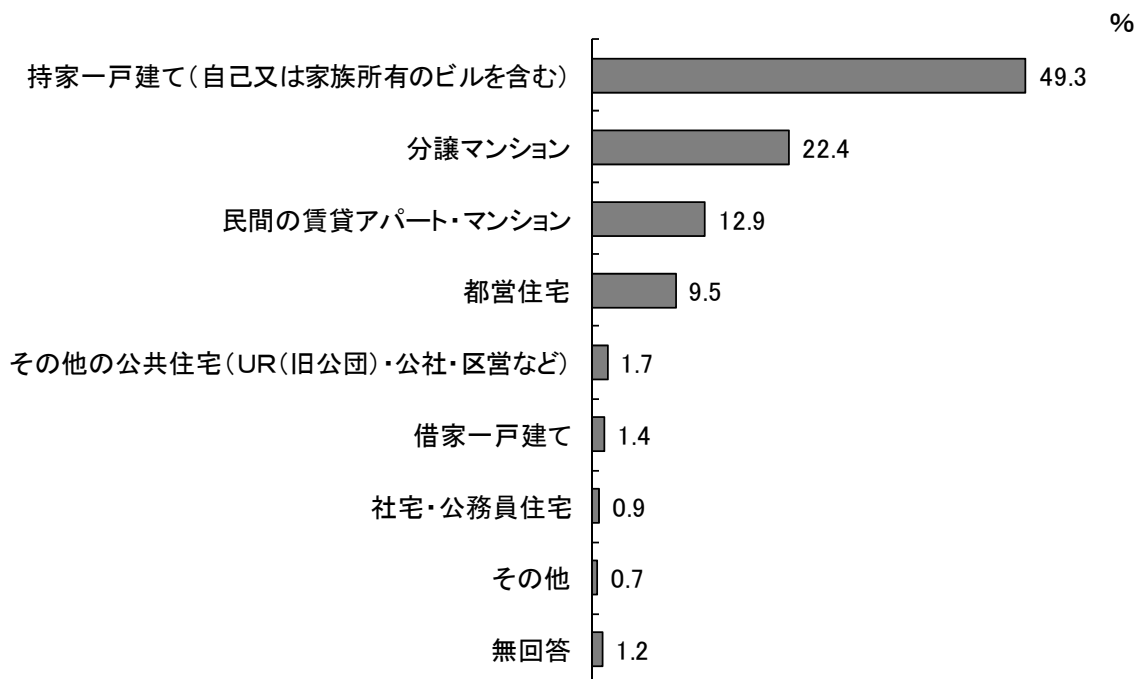
図表1-18 居住年数（N=2,691）



問10 お住まいはどれですか？（あてはまる番号に1つ）

住居形態は、「持家一戸建て（49.3%）」と「分譲マンション（22.4%）」を合わせると、約7割であった。また「民間の賃貸アパート・マンション」は12.9%、「都営住宅」は9.5%であった（図表1-19）。

図表1-19 住居形態（N=2,691）

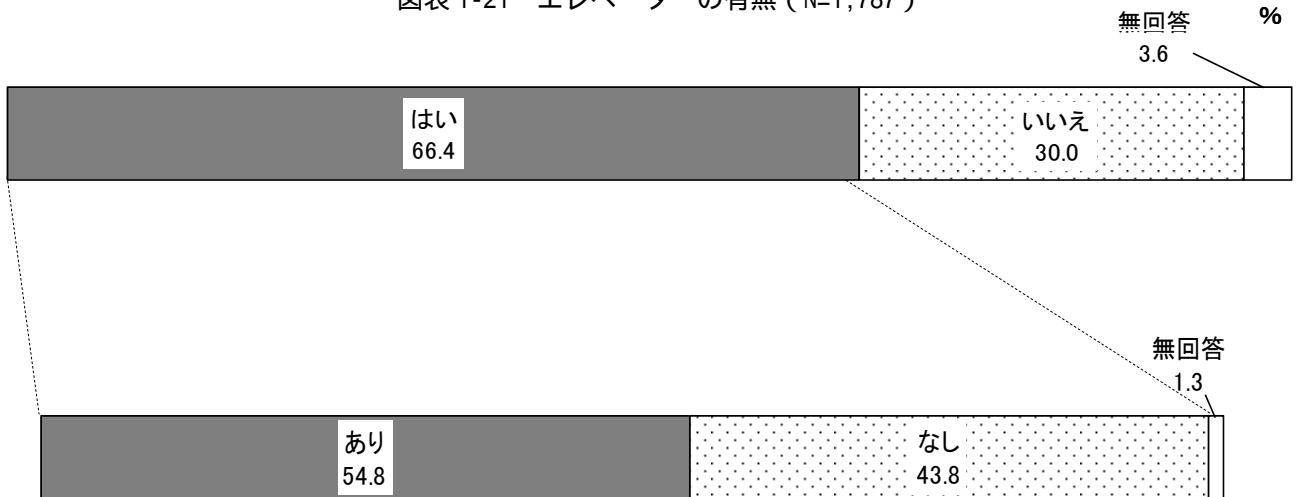


問 11 お住まい(主に生活する部屋)は、2階以上にありますか？(あてはまる番号に1つ)

住まいが「2階以上にある(66.4%)」と回答した人は約7割であった(図表1-20)。また2階以上に生活している人のうち「エレベーターがある」と回答した人は54.8%であった(図表1-21)。

図表 1-20 居室階数(2階以上にあるか)(N=2,691)

図表 1-21 エレベーターの有無(N=1,787)



(2) 住み替え意向

問 12 あなたは、現在のお住まいから住み替え(引っ越しを含む)をお考えですか？(あてはまる番号に1つ)

住み替えの意向について、「住み替えは考えていない(71.6%)」と回答した人は約7割であった。一方、「今すぐにも、住み替えをしたいと考えている(6.7%)」と回答した人は約7%であった(図表1-22)。

図表 1-22 住み替え意向(N=2,691)

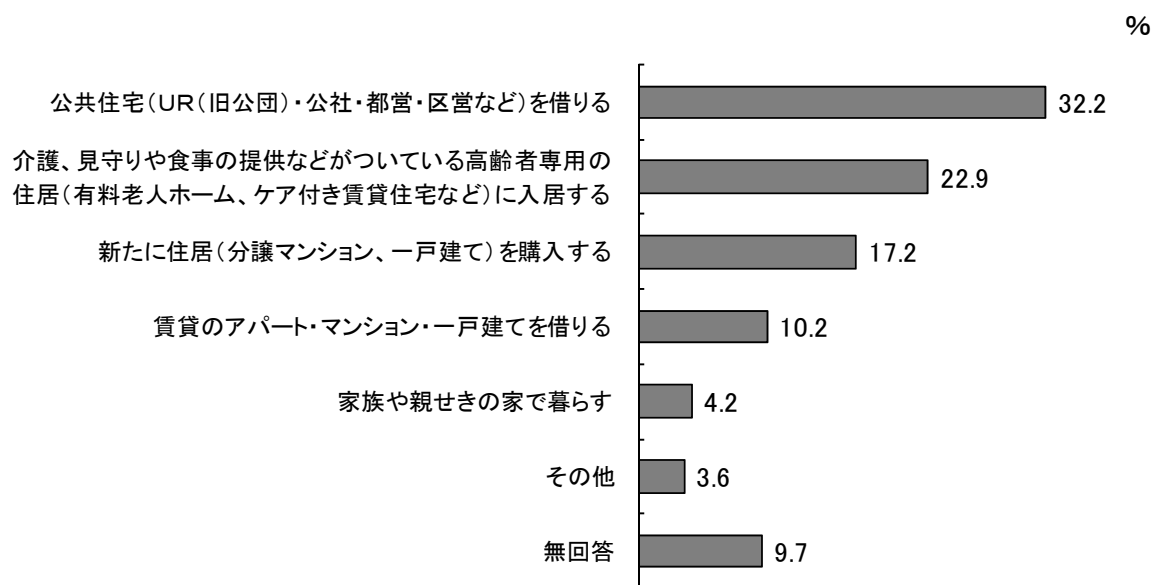


問 12-1 住み替え先として、どちらをお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

問 12 で、「今すぐにも、住み替えをしたいと考えている」「今のところ必要ないが、将来は住み替えを検討したいと思っている」と回答した人に、住み替え先をたずねた。

「公共住宅（32.2%）」が最も多く、次いで「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（22.9%）」であった。また、「新たに住居を購入する」は 17.2%であった（図表 1-23）。

図表 1-23 住み替え先（N=668）



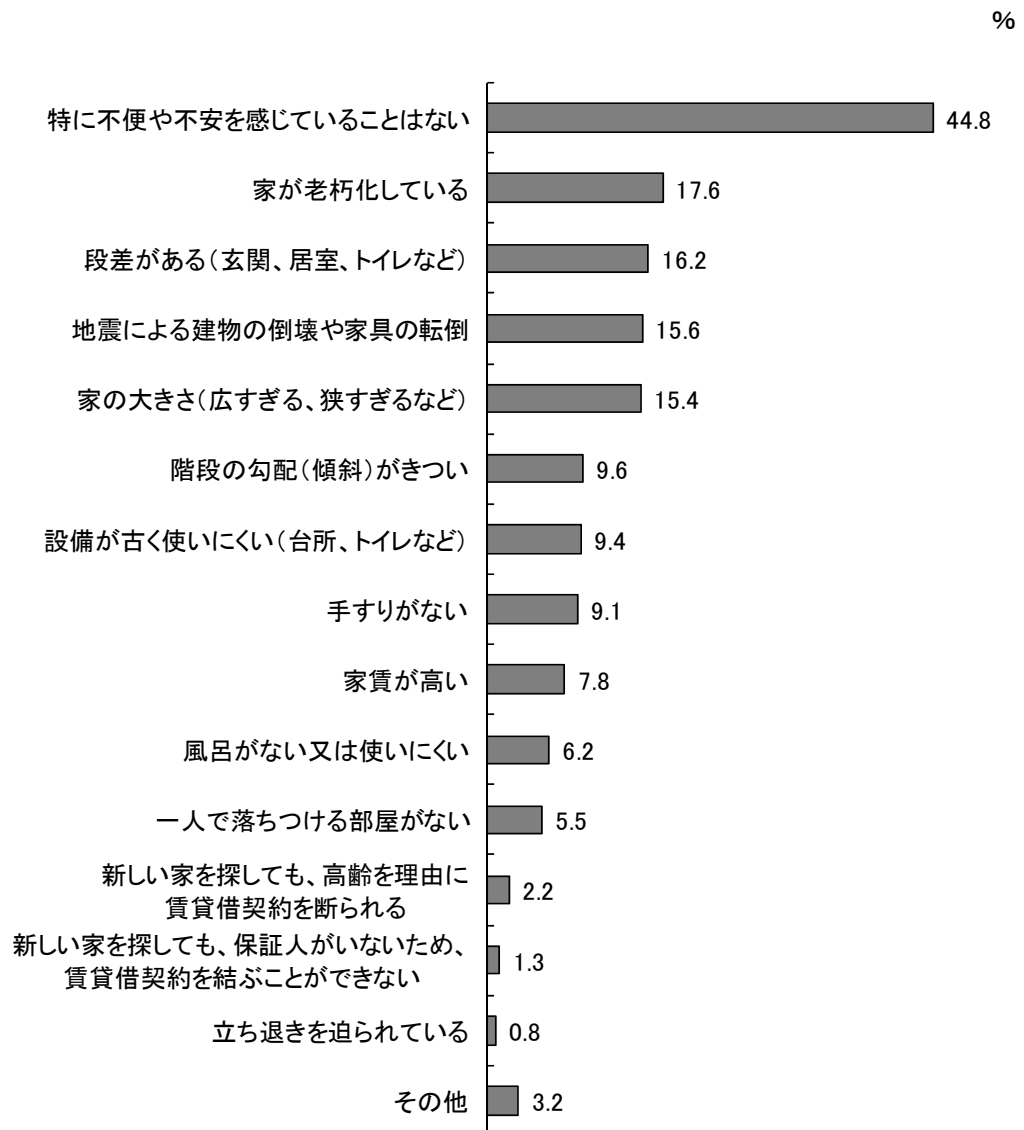
(3) 住まいで不便や不安を感じること

問 13 現在のお住まいで、不便や不安を感じていることはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

現在の住まいで不便や不安を感じていることをたずねた。

「特に不便や不安を感じていることはない(44.8%)」と回答した人は約 4 割であった。一方、不便や不安を感じることは、「家が老朽化している(17.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「段差がある(16.2%)」「地震による建物の倒壊や家具の転倒(15.6%)」「家の大きさ(15.4%)」の順であった。また、「新しい家を探しても、高齢を理由に賃貸借契約を断られる(2.2%)」「新しい家を探しても、保証人がいないため、賃貸借契約を結ぶことができない(1.3%)」「立ち退きを迫られている(0.8%)」といった賃貸借の問題も、少数ながらあげられている(図表 1-24)。

図表 1-24 住まいで不便や不安を感じること(複数回答)(N=2,373)

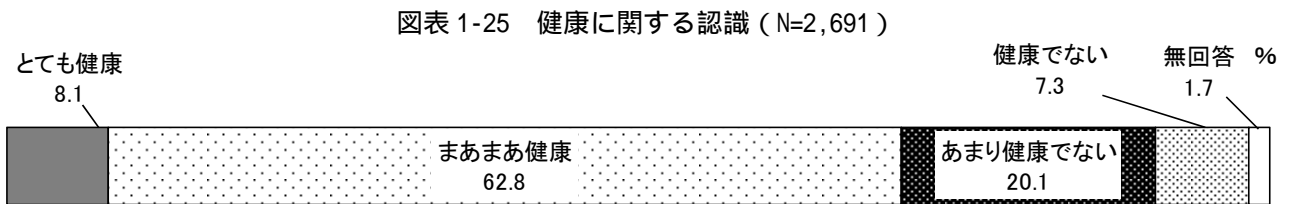


3. 健康状態

(1) 健康に関する認識

問 14 あなたは健康だと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

自分が健康と思うか（主観的健康観）についてたずねた。「とても健康（8.1%）」「まあまあ健康（62.8%）」と回答した人は、合わせて約7割であった。一方、「あまり健康でない（20.1%）」「健康でない（7.3%）」と回答した人は、合わせて約3割であった（図表1-25）。



(2) 治療中の病気

問 15 現在治療中の病気がありますか？（あてはまる番号に1つ）

治療中の病気が「ある（73.7%）」と回答した人は、約7割であった（図表1-26）。

図表 1-26 治療中の病気の有無 (N=2,691)

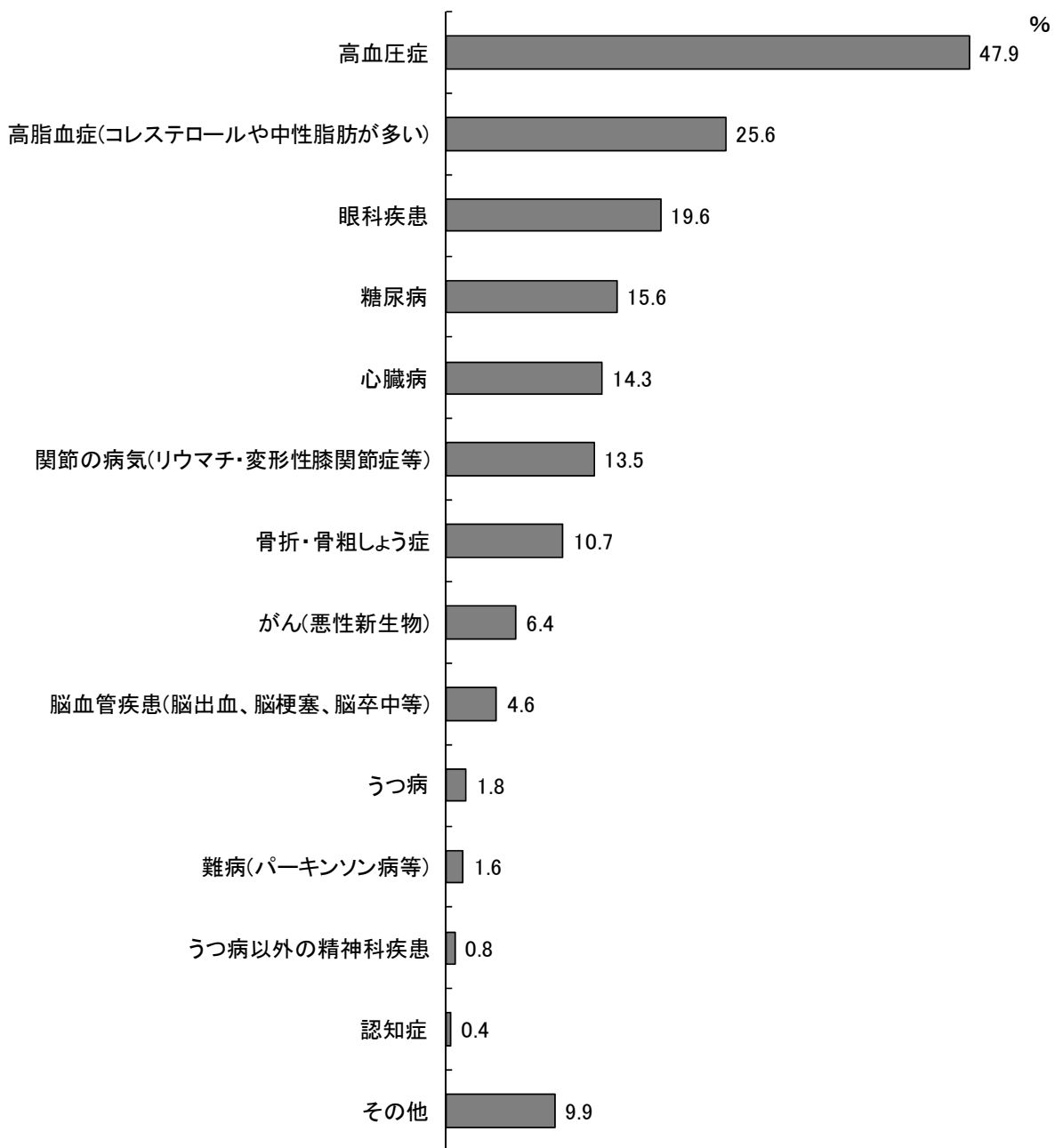


問 15-1 治療中の病気はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 15 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、病名をたずねた。

治療中の病気では、「高血圧症（47.9%）」が最も多く、続いて「高脂血症（コレステロールや中性脂肪が多い）（25.6%）」「眼科疾患（19.6%）」「糖尿病（15.6%）」「心臓病（14.3%）」「関節の病気（リウマチ・変形性膝関節症等）（13.5%）」「骨折・骨粗しょう症（10.7%）」の順であった（図表 1-27）。

図表 1-27 治療中の病気の種類（複数回答）(N=1,968)

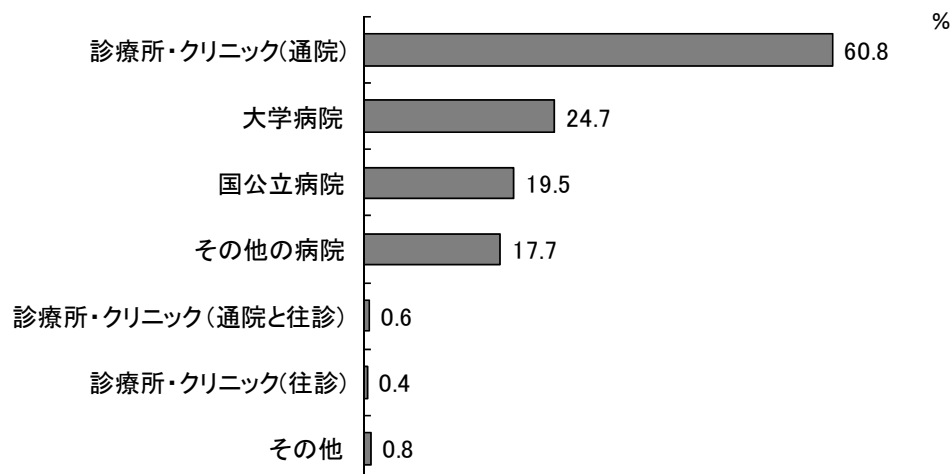


(3) 受診している医療機関

問 15-2 受診している医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 15 で、「治療中の病気がある」と回答した人に、受診している医療機関をたずねた。受診している医療機関では、「診療所・クリニック（通院）（60.8%）」が最も多く、続いて「大学病院（24.7%）」「国公立病院（19.5%）」の順であった（図表 1-28）。

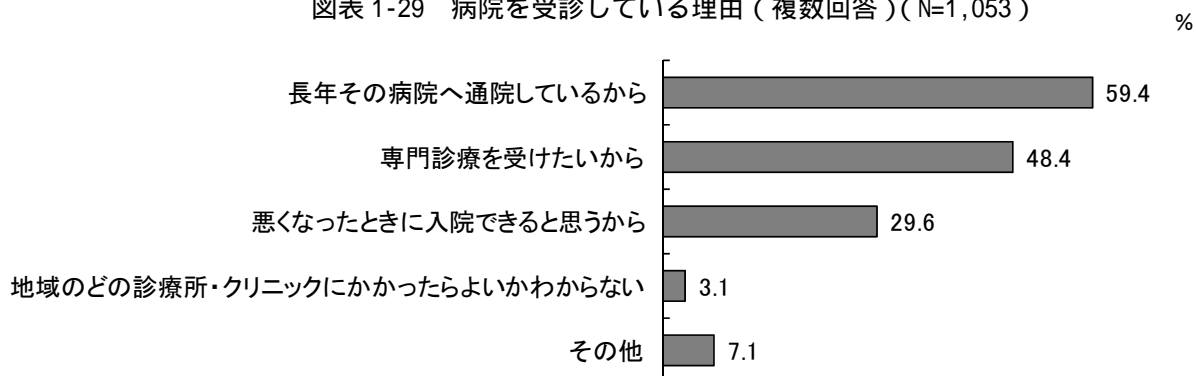
図表 1-28 受診している医療機関（複数回答）(N=1,947)



問 15-3 診療所やクリニック以外に病院を受診している理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに）

大学病院等を受診している理由では、「長年その病院へ通院しているから（59.4%）」と回答した人が最も多く、続いて「専門診療を受けたいから（48.4%）」「悪くなったときに入院できると思うから（29.6%）」の順であった（図表 1-29）。

図表 1-29 病院を受診している理由（複数回答）(N=1,053)



(4) かかりつけ医

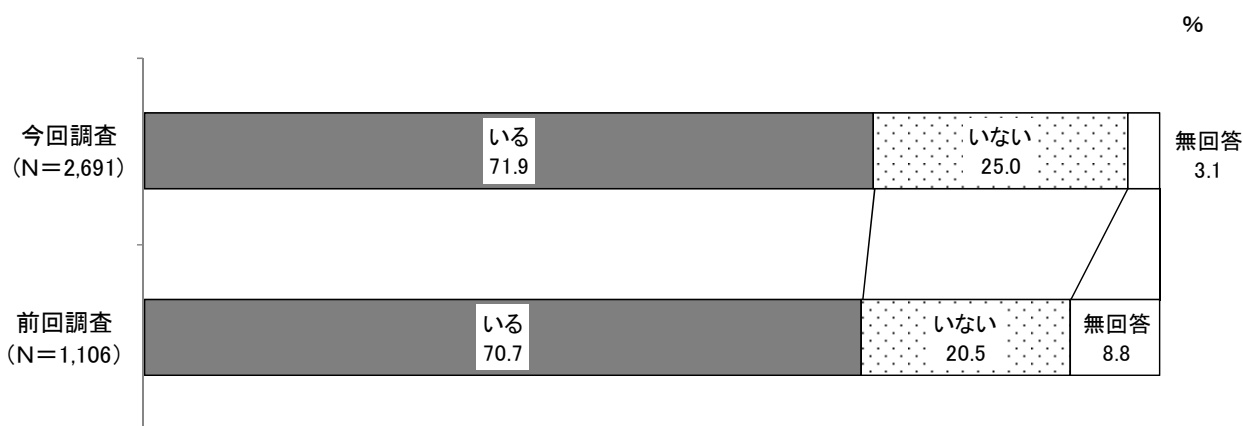
問 16 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる「かかりつけ医」がいますか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医が「いる（71.9%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-30）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査時めかかりつけ医が「いる」と回答した人は7割を超えており、今回調査は平成 19 年度調査と比較し、1.2 ポイント増加した（図表 1-30）。

図表 1-30 かかりつけ医の有無



※ここでいう「かかりつけ医」とは、診療所やクリニックにいる医師をさします。

年齢層別に平成 19 年度調査と比較すると、かかりつけ医が「いる」と回答した人は、「70 歳から 74 歳（1.8 ポイント増）」、「80 歳から 84 歳（8.5 ポイント増）」、「85 歳から 89 歳（2.1 ポイント増）」で増加した。一方、かかりつけ医が「いない」と回答した人では、「65 歳から 69 歳（5.8 ポイント増）」と「70 歳から 74 歳（6.9 ポイント増）」の年齢層で大きく増加した。

また「75 歳から 79 歳（6.9 ポイント増）」の層では、「いる」と答えた方、「いない」と答えた方ともに数値に大きな変化は見られない（図表 1-31）。

図表 1-31 かかりつけ医の有無（年齢別・平成 19 年度調査との比較）

今回調査				平成19年度調査			
	いる	いない	無回答		いる	いない	無回答
65歳～69歳 (N=809)	63.8	34.7	1.5	65歳～69歳 (N=329)	65.3	28.9	5.8
70歳～74歳 (N=744)	70.2	28.2	1.6	70歳～74歳 (N=329)	68.4	21.3	10.3
75歳～79歳 (N=603)	78.9	17.1	4.0	75歳～79歳 (N=240)	78.8	15.0	6.3
80歳～84歳 (N=350)	80.6	14.0	5.4	80歳～84歳 (N=140)	72.1	13.6	14.3
85歳～89歳 (N=146)	80.8	12.3	6.8	85歳～89歳 (N=47)	78.7	14.9	6.4
90歳以上 (N=3)	66.7	33.3	0.0	90歳以上 (N=9)	88.9	0.0	11.1

図表 1-32 かかりつけ医の有無（年齢別 / 受診している医療機関別）

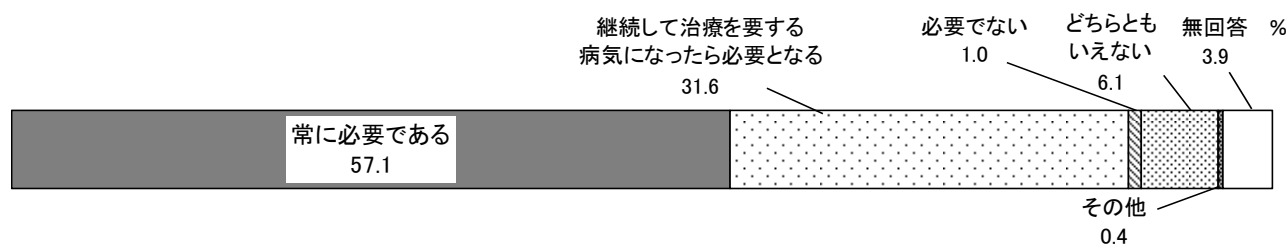
(%)

		いる	いない	合計
年 齢	65歳～69歳 (N=797)	64.7	35.3	100.0
	70歳～74歳 (N=732)	71.3	28.7	100.0
	75歳～79歳 (N=579)	82.2	17.8	100.0
	80歳～84歳 (N=331)	85.2	14.8	100.0
	85歳～89歳 (N=136)	86.8	13.2	100.0
	90歳以上 (N=3)	66.7	33.3	100.0
受診している 医療機関	その他 (N=15)	80.0	20.0	100.0
	診療所・クリニック(通院) (N=1,166)	92.2	7.8	100.0
	診療所・クリニック(往診) (N=7)	100.0	0.0	100.0
	診療所・クリニック(通院と往診) (N=12)	91.7	8.3	100.0
	国公立病院 (N=371)	75.5	24.5	100.0
	大学病院 (N=464)	69.2	30.8	100.0
	その他の病院 (N=330)	73.6	26.4	100.0

問 17 「かかりつけ医」の必要性を、どうお考えですか？（あてはまる番号に1つ）

かかりつけ医の必要性では、「常に必要である（57.1%）」と回答した人が約6割、「継続して治療を要する病気になったら必要となる」と回答した人が31.6%であった（図表 1-33）。

図表 1-33 かかりつけ医の必要性（N=2,691）



(5) 歯の状況・かかりつけ歯科医

問 18 あなたは、1年以内に歯科を受診しましたか？（あてはまる番号に1つ）

1年以内に歯科を「受診した（67.1%）」と回答した人は、約7割であった（図表 1-34）。

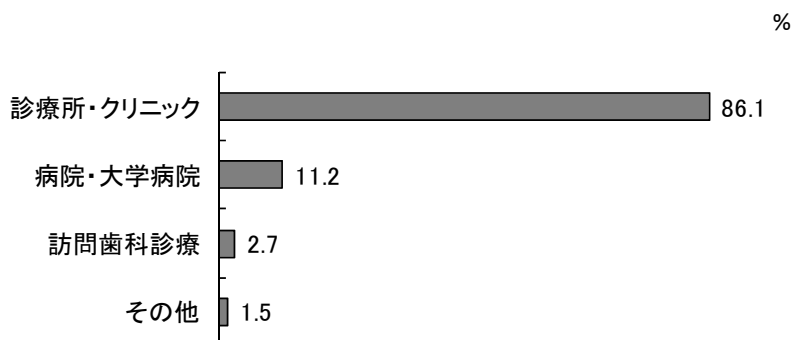
図表 1-34 1年以内の歯科受診の有無（N=2,691）



問 18-1 受診している歯科医療機関はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

1年以内に歯科を受診した人に、歯科医療機関の種類をたずねたところ、「診療所・クリニック（86.1%）」が約9割と最も多く、次に「病院・大学病院（11.2%）」であった（図表 1-35）。

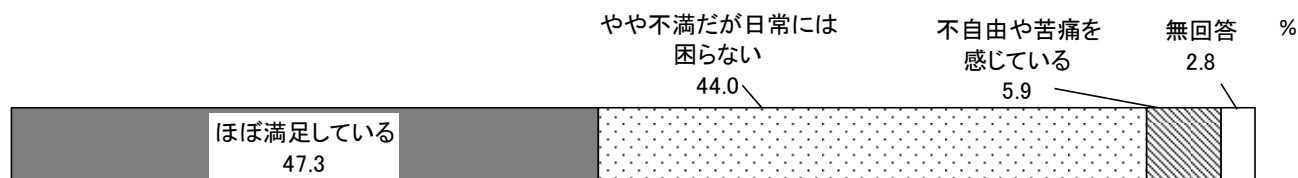
図表 1-35 受診した歯科医療機関（複数回答）（N=1,788）



問 19 あなたは、ご自身の歯や口、入れ歯の状態についてどのように感じていますか？
 (あてはまる番号に1つ)

自分の歯や口、入れ歯の状態についてたずねたところ、「ほぼ満足している」と回答した人は47.3%、「やや不満だが日常生活には困らない」は44.0%であった。一方、「不自由や苦痛を感じている」と回答した人は5.9%であった(図表 1-36)。

図表 1-36 歯や口、入れ歯の状態 (N=2,691)



問 20 あなたには、治療や予防のために継続的に受診したり、気軽に相談できる「かかりつけ歯科医」がいますか？ (あてはまる番号に1つ)

かかりつけ歯科医の有無についてたずねたところ、「いる」と回答した人は75.2%、「いない」と回答した人は23.0%であった(図表 1-37)。

図表 1-37 かかりつけ歯科医の有無 (N=2,691)



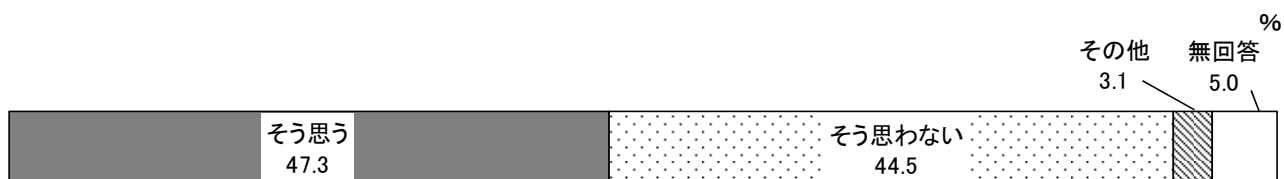
※ここでいう「かかりつけ歯科医」とは、診療所やクリニックにいる歯科医師をさします。

(6) 在宅療養等

問 21 「在宅療養」について伺います。長期の療養が必要になった場合、あなたは、自宅で療養を続けたいと思いますか？（あてはまる番号に1つ）

長期の療養が必要になった場合、自宅で療養を続けたいかについて、「そう思う（47.3%）」と回答した人と「そう思わない（44.5%）」と回答した人は、ほぼ半数の割合であった（図表 1-38）。

図表 1-38 在宅療養の希望（N=2,691）



図表 1-39 在宅療養の希望（年齢別）

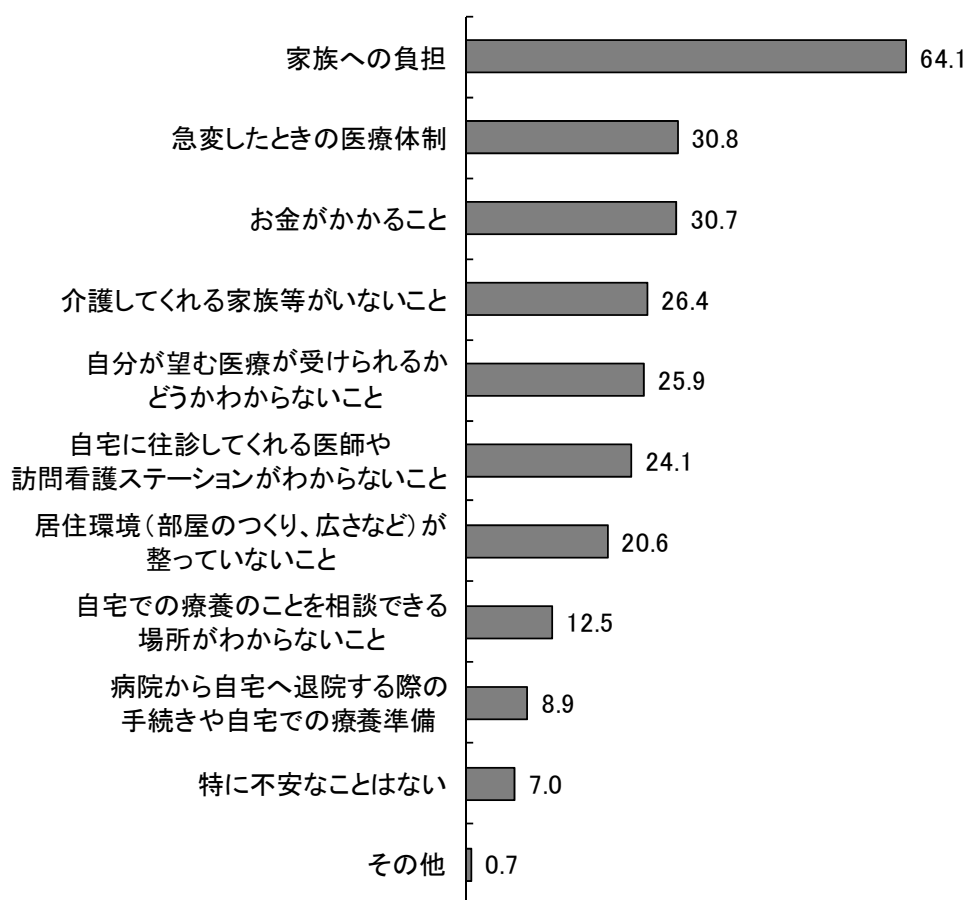
		そう思う	そう思わない	その他	合計
年齢	65歳～69歳 (N=787)	46.0	51.5	2.5	100.0
	70歳～74歳 (N=715)	48.5	48.3	3.2	100.0
	75歳～79歳 (N=569)	50.6	45.3	4.0	100.0
	80歳～84歳 (N=329)	56.5	38.9	4.6	100.0
	85歳～89歳 (N=128)	54.7	43.0	2.3	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	66.7	0.0	100.0

問 22 あなたが、自宅で療養する場合、その実現を難しくする要因は何ですか？
 (あてはまる番号すべてに)

在宅療養を難しくする要因では、「家族への負担(64.1%)」と回答した人が最も多く、続いて「急変したときの医療体制(30.8%)」「お金がかかること(30.7%)」の順となっている(図表 1-40)。

図表 1-40 在宅療養の実現を難しくする要因(複数回答)(N=2,461)

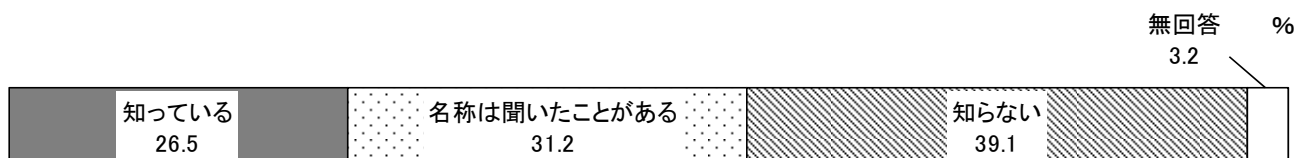
%



問 23 あなたは、「緩和ケア」について知っていますか？（あてはまる番号に1つ）

緩和ケアについて、「知っている」と回答した人は26.5%、「知らない」と回答した人は39.1%であった（図表 1-41）。

図表 1-41 緩和ケアの認知度（N=2,691）

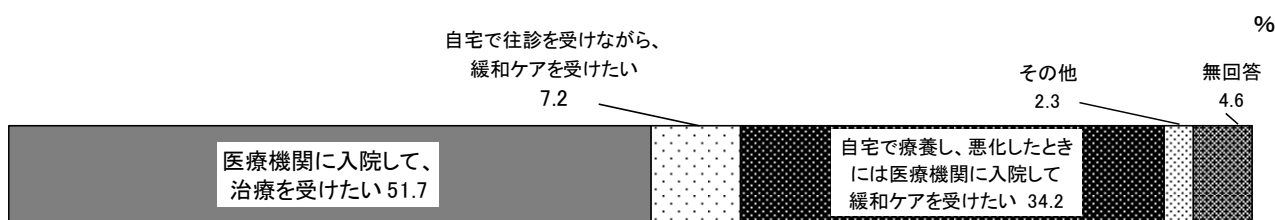


問 24 あなたが、末期がんなどで療養が必要になった場合に、療養する場所はどこがいいですか？（あてはまる番号に1つ）

末期がんなどで療養が必要になった場合に、希望する療養場所をたずねた。

「医療機関に入院して、治療を受けたい（51.7%）」と回答した人が5割を超えて最も多く、次いで「自宅で療養し、悪化したときには医療機関に入院して緩和ケアを受けたい（34.2%）」であった（図表 1-42）。

図表 1-42 療養場所（N=2,691）



4. 日ごろの生活

問 25 あなたの毎日の生活についておたずねします。

(あてはまる番号 1. はい 2. いいえ にそれぞれ をつけてください。)(N=2,691)

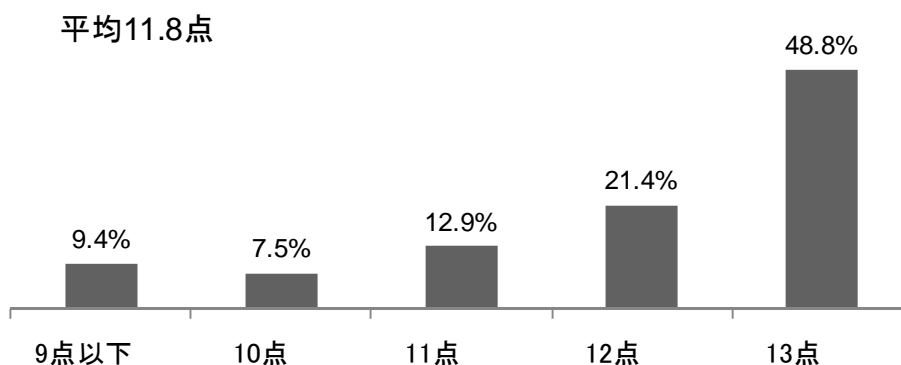
(1) 活動能力指標 (老研式 ※注)

	はい	いいえ	無回答
1. バスや電車を使って一人で外出できますか (自分で車を運転することも可)	93.6%	3.6%	2.7%
2. 日用品の買い物ができますか	95.8%	2.3%	1.9%
3. 自分で食事の用意ができますか	91.3%	6.8%	1.9%
4. 請求書の支払いができますか	95.2%	2.5%	2.2%
5. 預貯金の出し入れができますか	94.0%	3.9%	2.1%
6. 年金などの書類が書けますか	90.4%	5.4%	4.1%
7. 新聞を読んでいますか	89.5%	7.9%	2.6%
8. 本や雑誌を読んでいますか	83.8%	12.6%	3.5%
9. 健康についての記事や番組に関心がありますか	91.4%	6.0%	2.6%
10. 友人の家を訪ねることがありますか	63.7%	32.9%	3.4%
11. 家族や友人の相談にのることがありますか	81.0%	15.3%	3.7%
12. 病人を見舞うことができますか	89.0%	7.7%	3.3%
13. 若い人に自分から話しかけることができますか	80.5%	16.1%	3.5%

(※注) 東京都老人総合研究所において開発された、定評ある高齢者の活動能力指標です。老研式活動能力指標は、高齢者の高次の生活機能(IADL)を 13 項目から測定し、いわば、高齢者が地域で自立した生活を営んでいくための能力を把握するための「ものさし」です。

老研式活動能力指標にて心身機能について全国平均と比較してみると、新宿区の平均点は 11.8 点と全国平均 10.8 点を上回っており、日常生活機能の高い人が相対的に多いといえる(図表 1-43)。

図表 1-43 活動能力指標 (老研式)(N = 2,691)



※合計得点(「はい」を1点、「いいえ」を0点とする。13点満点)

(2) こころの健康状況

	はい	いいえ	無回答
14. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	16.6%	79.5%	3.9%
15. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが、 楽しめなくなった	13.8%	82.6%	3.6%
16. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今では おっくうに感じられる	37.3%	59.7%	3.0%
17. (ここ2週間) 自分は役に立つ人間だと思えない	17.8%	78.4%	3.8%
18. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	29.3%	67.4%	3.3%

5つの質問からこころの健康状況をみたところ、すべての質問に「いいえ」と回答した人（「はい」と回答した数が0個）は48.5%であった（図表1-44）。

図表1-44 こころの健康状況（14～18の項目で「はい」と答えた数の合計）

	0個	1個	2個	3個	4個	5個
合計	48.5	19.6	14.4	7.6	5.2	4.7

図表 1-45 こころの健康状況（14～18 全てに答えた「はい」の数）

（性別／年齢別／世帯構成別／暮らし向き別／健康に関する認識別／治療中の病気別／記憶力等の変化別）

(%)

		0個	1個	2個	3個	4個	5個	合計
性別	男性 (N=1,049)	47.1	21.2	13.0	7.6	5.9	5.2	100.0
	女性 (N=1,446)	49.7	18.4	15.4	7.7	4.6	4.2	100.0
年齢	65歳～69歳 (N=782)	56.8	16.0	12.9	5.6	4.3	4.3	100.0
	70歳～74歳 (N=704)	51.7	17.5	13.6	8.1	5.1	4.0	100.0
	75歳～79歳 (N=559)	44.2	24.5	14.7	7.7	5.0	3.9	100.0
	80歳～84歳 (N=306)	37.9	21.6	17.3	9.2	7.5	6.5	100.0
	85歳～89歳 (N=125)	27.2	27.2	18.4	12.8	6.4	8.0	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	100.0
世帯構成	ひとり暮らし (N=607)	43.8	18.0	12.9	9.9	7.2	8.2	100.0
	夫婦のみ (N=867)	51.3	20.3	13.0	7.6	5.1	2.7	100.0
	その他 (N=1,006)	49.1	19.9	16.4	6.3	4.1	4.3	100.0
暮らし向き	ゆとりがある (N=209)	58.9	23.9	7.2	7.2	1.9	1.0	100.0
	ややゆとりがある (N=1,030)	56.4	20.8	12.6	5.2	3.0	1.9	100.0
	やや苦しい (N=848)	42.3	18.5	18.4	8.6	6.5	5.7	100.0
	苦しい (N=299)	31.1	16.7	14.7	13.4	10.7	13.4	100.0
健康に関する認識 (主観的健康観)	とても健康 (N=214)	80.8	9.8	6.5	0.9	1.4	0.5	100.0
	まあまあ健康 (N=1,588)	55.9	21.0	12.4	5.7	2.9	2.1	100.0
	あまり健康でない (N=492)	23.6	21.7	22.2	13.2	9.1	10.2	100.0
	健康でない (N=175)	14.3	13.1	20.6	15.4	20.0	16.6	100.0
治療中の病気	高血圧症 (N=876)	40.6	23.1	15.9	9.4	5.4	5.7	100.0
	高脂血症 (N=478)	41.0	24.1	15.5	6.9	7.1	5.4	100.0
	脳血管疾患 (N=80)	28.8	22.5	20.0	15.0	7.5	6.3	100.0
	心臓病 (N=258)	34.9	22.5	19.0	8.1	7.4	8.1	100.0
	がん(悪性新生物) (N=119)	27.7	14.3	25.2	10.9	13.4	8.4	100.0
	糖尿病 (N=287)	42.9	17.4	18.1	7.7	6.3	7.7	100.0
	骨折・骨粗しょう症 (N=198)	32.3	18.7	19.2	9.1	9.1	11.6	100.0
	関節の病気 (N=245)	31.4	20.8	20.4	11.4	9.0	6.9	100.0
	難病(パーキンソン病等) (N=30)	30.0	30.0	13.3	10.0	10.0	6.7	100.0
	眼科疾患 (N=361)	32.4	21.6	18.8	9.7	10.0	7.5	100.0
	認知症 (N=8)	0.0	12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	100.0
	うつ病 (N=34)	11.8	8.8	20.6	20.6	11.8	26.5	100.0
	うつ病以外の精神科疾患 (N=14)	7.1	28.6	42.9	7.1	7.1	7.1	100.0
	その他 (N=185)	47.6	16.2	18.4	6.5	6.5	4.9	100.0
記憶力等の変化	ある (N=910)	29.3	21.5	18.8	12.7	9.6	8.0	100.0
	ない (N=1,537)	60.5	18.4	11.7	4.4	2.5	2.4	100.0

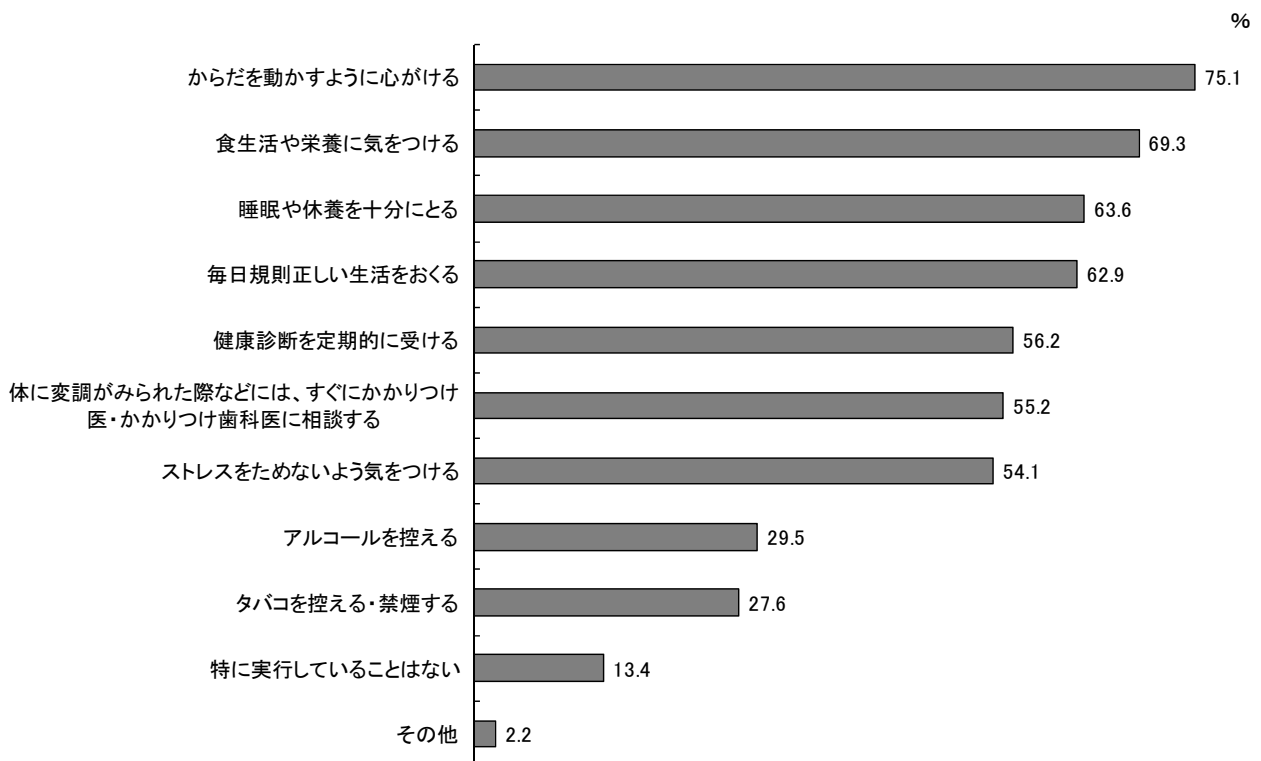
(3) 健康な生活を送るために心がけていること

問 26 健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

健康な生活を送るために、普段の生活で心がけていることでは、「からだを動かすように心がける (75.1%)」と回答した人が最も多く、続いて「食生活や栄養に気をつける (69.3%)」「睡眠や休養を十分にとる (63.6%)」の順であった。

一方、「特に実行していることはない」という人は、13.4%であった (図表 1-46)。

図表 1-46 健康な生活を送るために心がけていること (複数回答) (N=2,666)

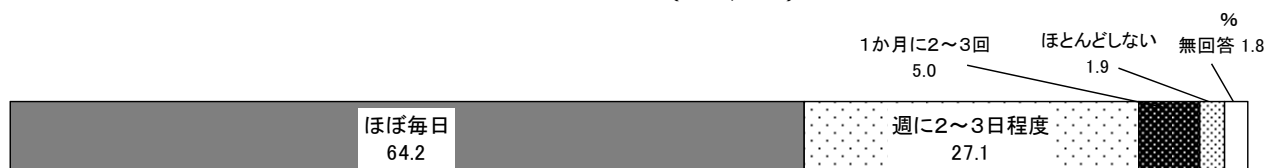


(4) 外出

問 27 あなたは、どの程度外出しますか？ (あてはまる番号に1つ)

外出の頻度について、「ほぼ毎日 (64.2%)」と回答した人は約 6 割であった。一方「1 か月に 2~3 回」という人は 5.0%、「ほとんどしない」という人は 1.9%であった (図表 1-47)。

図表 1-47 外出の頻度 (N=2,691)



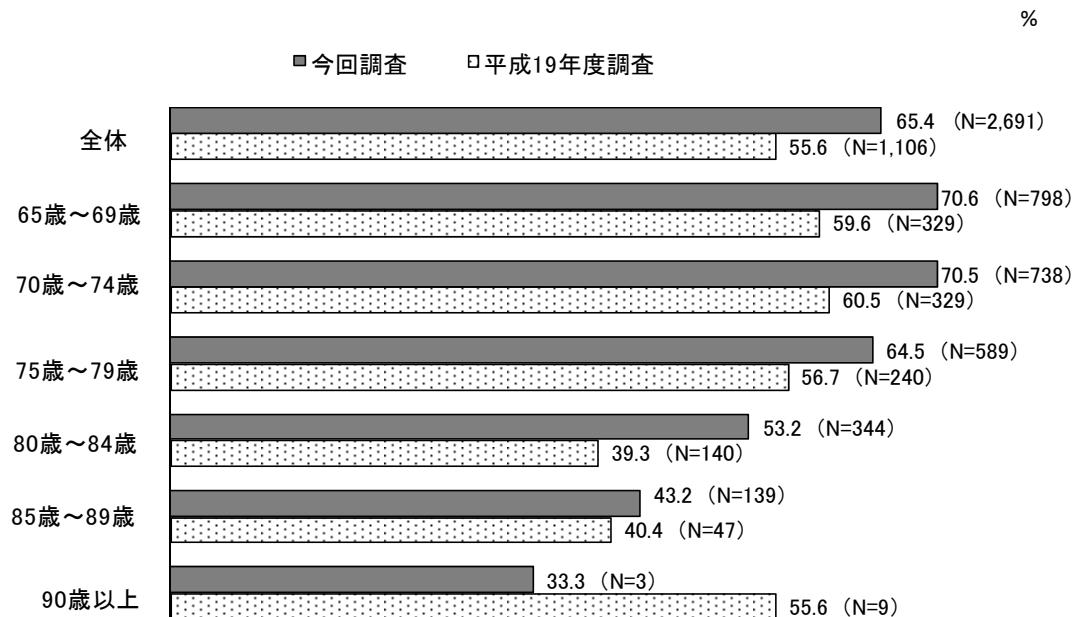
図表 1-48 外出の頻度（性別・年齢別）

		ほぼ毎日	週に2～3日程度	1か月に2～3回	ほとんどしない	合計
性別	男性 (N=1,087)	69.5	23.3	5.0	2.3	100.0
	女性 (N=1,540)	62.3	30.8	5.1	1.8	100.0
年齢	65歳～69歳 (N=798)	70.6	24.2	4.3	1.0	100.0
	70歳～74歳 (N=738)	70.5	24.0	4.2	1.4	100.0
	75歳～79歳 (N=589)	64.5	29.7	4.6	1.2	100.0
	80歳～84歳 (N=344)	53.2	34.6	7.8	4.4	100.0
	85～89歳 (N=139)	43.2	41.7	7.9	7.2	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	0.0	33.3	33.3	100.0

（平成 19 年度調査との比較）

年齢別で平成 19 年度調査と比較すると、今回の調査では、90 歳以上を除くどの年齢層を見ても、平成 19 年度調査より「ほぼ毎日」が増加している（図表 1-49）。

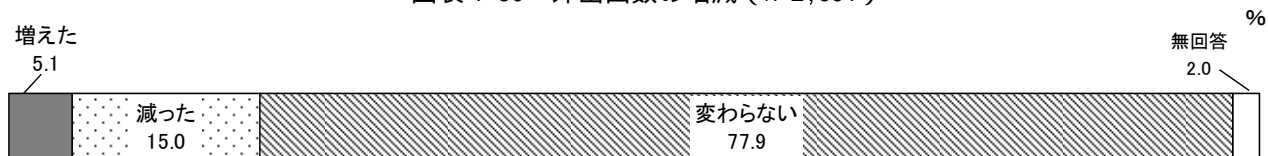
図表 1-49 外出の頻度（ほぼ毎日外出する）（年齢別 / 平成 19 年度調査との比較）



問 28 昨年と比べて、あなたの外出の回数は変わりましたか？（あてはまる番号に1つ）

昨年と比較した外出の回数では、「増えた（5.1%）」「変わらない（77.9%）」と回答した人が8割を超え、「減った」が15.0%であった（図表 1-50）。

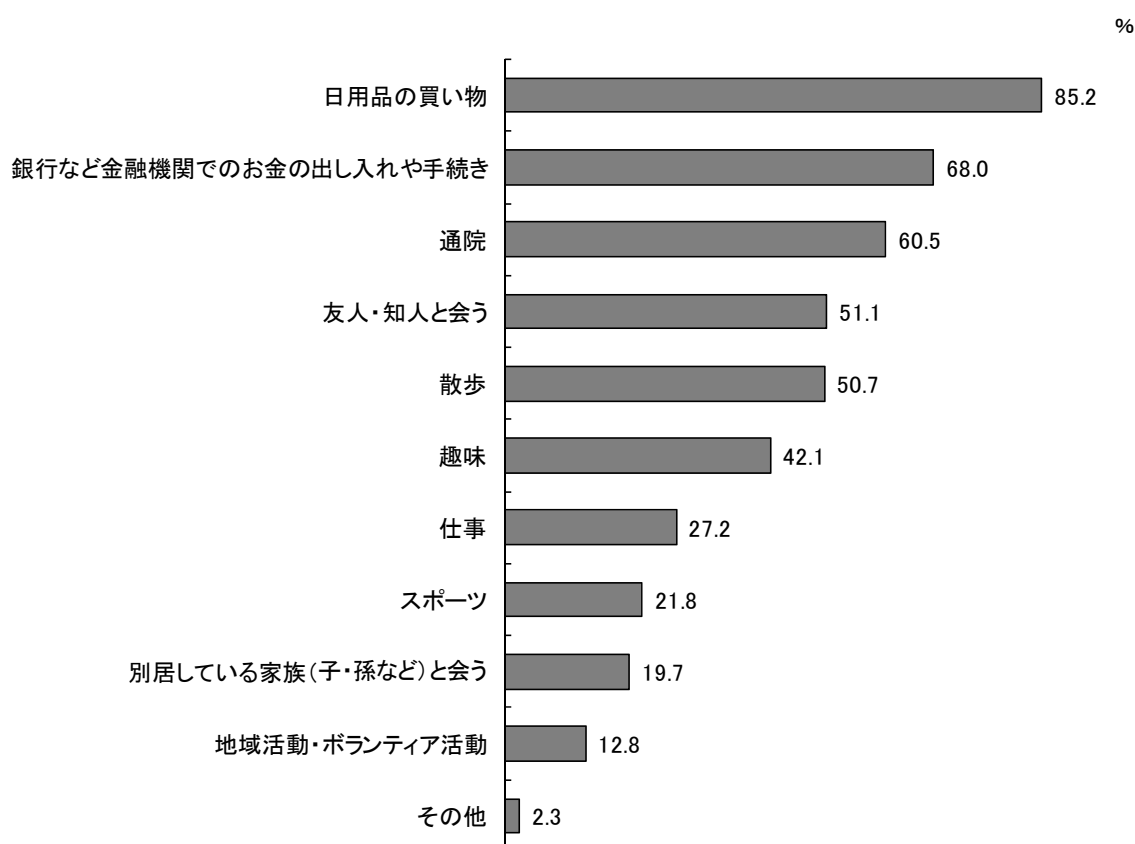
図表 1-50 外出回数の増減（N=2,691）



問 29 どのようなときに、外出しますか？（あてはまる番号すべてに）

「日用品の買い物（85.2%）」と回答した人が最も多く、続いて「銀行など金融機関でのお金の出し入れや手続き（68.0%）」「通院（60.5%）」の順であった（図表 1-51）。

図表 1-51 外出の理由（複数回答）(N=2,651)

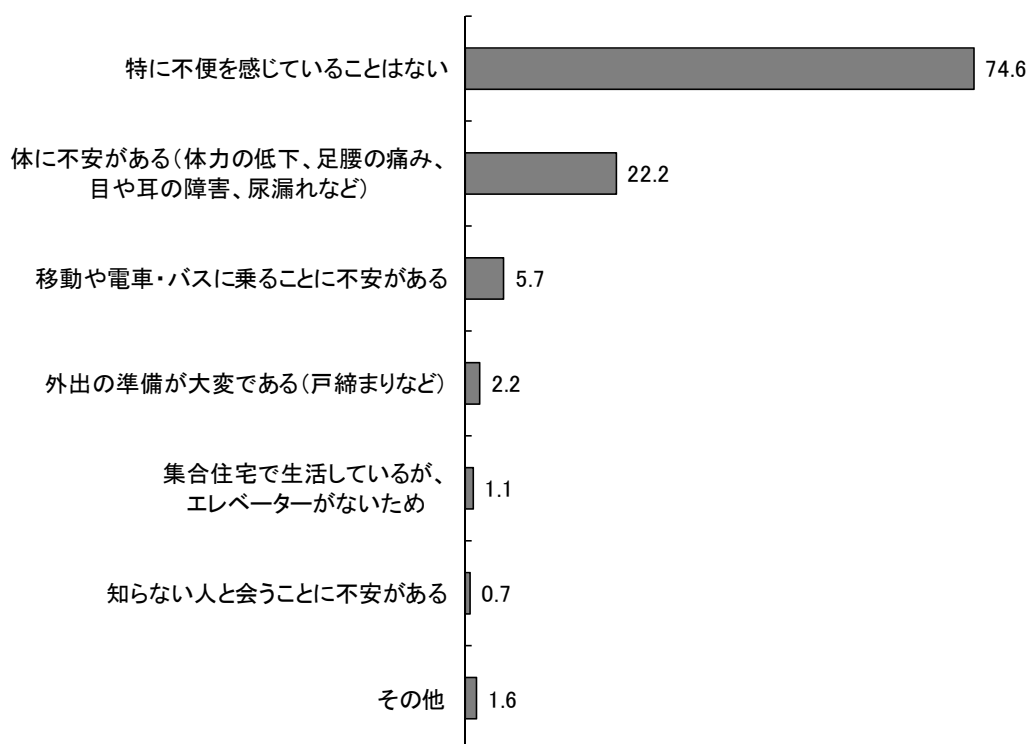


問 30 外出の際に不便に感じることや外出を控えることがあるとしたらその理由は何ですか？
(あてはまる番号すべてに)

「特に不便を感じていることはない(74.6%)」と回答した人は、約7割であった。

一方、不便に感じることや外出を控える理由では、「体に不安がある(体力の低下、足腰の痛み、目や耳の障害、尿漏れなど)(22.2%)」が最も多く、次いで「移動や電車・バスに乗ることに不安がある(5.7%)」であった(図表 1-52)。

図表 1-52 外出の際に不便に感じること、外出を控える理由(複数回答)
(N=2,369) %

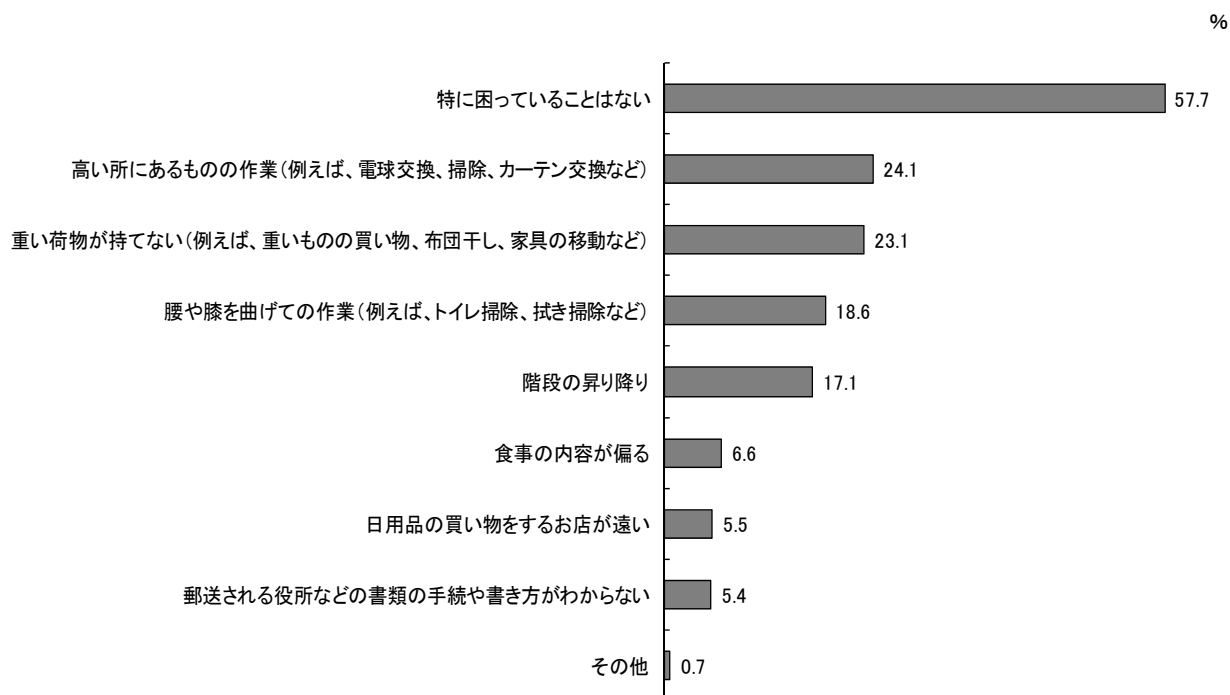


(5) 日常生活での困りごと

問 31 あなたは、日常生活の場面において、以下のような困りごとがありますか？
(あてはまる番号すべてに)

「特に困っていることはない (57.7%)」と回答した人は約 6 割であった。一方、困っていることでは、「高い所にあるものの作業 (24.1%)」が最も多く、続いて「重い荷物が持てない (23.1%)」「腰や膝を曲げての作業 (18.6%)」の順であった (図表 1-53)。

図表 1-53 日常生活での困りごと (複数回答) (N=2,527)



図表 1-54 日常生活での困りごと (年齢別 / 複数回答)

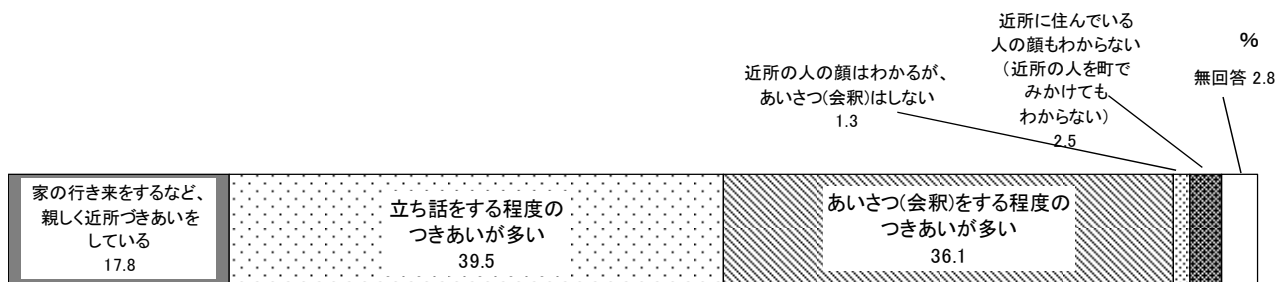
年齢	N	お日用品の遠い買い物をする	重い荷物が持てない	食事の内容が偏る	い郵便の手続や書き方がわからない	高い所にあるものの作業	腰や膝を曲げての作業	階段の昇り降り	特に困っていることはない	その他
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
65歳～69歳	(N=753)	4.2	13.9	6.8	2.7	12.4	10.5	9.3	70.9	0.5
70歳～74歳	(N=701)	3.1	17.4	5.1	3.9	17.5	15.3	16.0	64.3	0.1
75歳～79歳	(N=567)	6.3	27.3	6.5	8.5	30.3	21.5	19.9	50.3	1.8
80歳～84歳	(N=338)	9.8	42.0	8.6	8.3	42.9	30.5	26.9	37.0	0.0
85歳～89歳	(N=136)	11.8	37.5	8.1	8.1	49.3	39.0	30.9	33.8	1.5
90歳以上	(N=3)	33.3	66.7	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0

(6) 近所づきあいの程度

問 32 あなたは、ご近所とどのようなおつきあいをしていますか？
 (あてはまる番号に1つ)

近所付き合いの程度では、「立ち話をする程度のつきあいが多い(39.5%)」と回答した人が最も多く、次いで「あいさつ(会釈)をする程度のつきあいが多い(36.1%)」であった。一方、「近所の人の顔はわかるが、あいさつ(会釈)はしない」は1.3%、「近所に住んでいる人の顔もわからない(近所の人を町でみかけてもわからない)」は2.5%、「近所に住んでいる人の顔もわからない(近所の人を町でみかけてもわからない)」は2.5%であった(図表 1-55)。

図表 1-55 近所づきあいの程度 (N=2,691)



問 33 あなたは、日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)は必要だと思いますか？ (あてはまる番号に1つ)

近所のつながりの必要性では、「とても必要だと思う(39.4%)」「どちらかといえば必要だと思う(50.4%)」と回答した人を合わせると、約9割であった(図表 1-56)。

図表 1-56 地域のつながりの必要性 (N=2,691)



5. いきがいづくりや社会参加

(1) いきがい

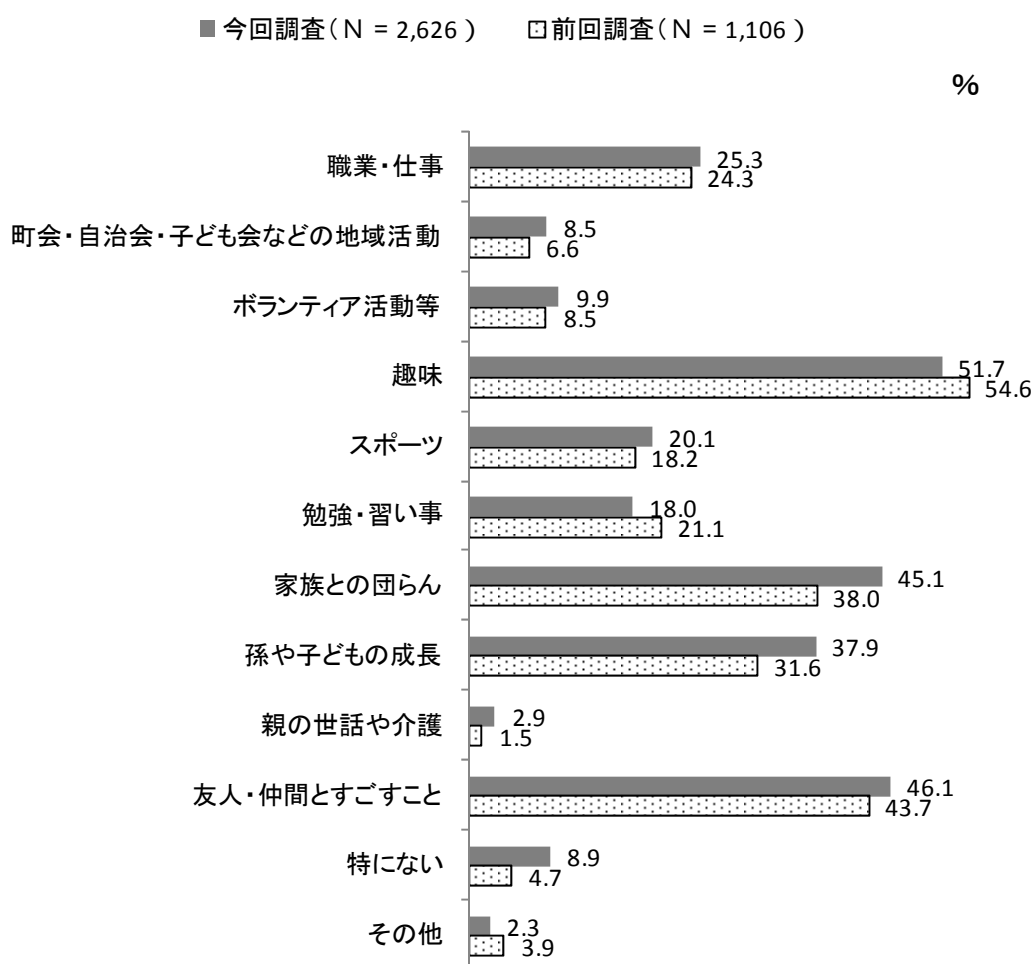
問 34 あなたは、どのようなことにいきがいを感じていますか？（あてはまる番号すべてに ）

いきがいを感ずることについてたずねた。「趣味（51.7%）」と回答した人が最も多く、続いて「友人・仲間とすごすこと（46.1%）」「家族との団らん（45.1%）」の順であった（図表 1-57）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較すると、今回調査では、「家族との団らん」が 38.0%から 45.1%に、「孫や子どもの成長」が 31.6%から 37.9%に、それぞれ大きく増加した（図表 1-57）。

図表 1-57 いきがいを感ずること（平成 19 年度調査との比較/複数回答）



図表 1-58 いきがいを感じること（性別／複数回答）

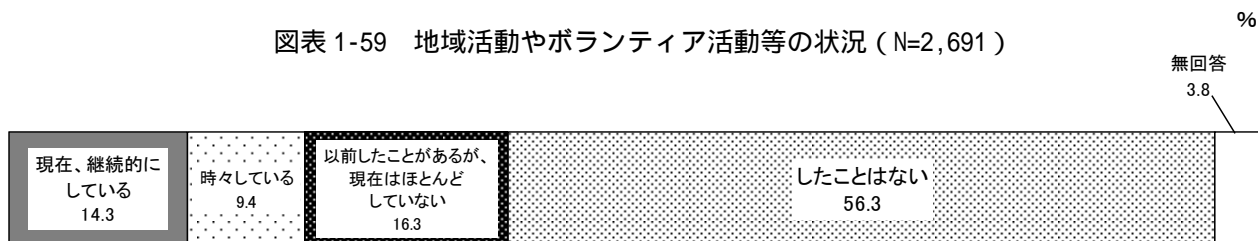
		職業・仕事	町会・自治会・子ども会などの地域活動	ボランティア活動等	趣味	スポーツ	勉強・習い事	友人・仲間とすごすこと	家族との団らん	孫や子どももの成長	親の世話や介護	特にない	その他
性別	男性 (N=1,081)	37.6	10.4	8.7	53.1	22.0	12.4	36.1	42.5	36.5	1.9	10.1	2.1
	女性 (N=1,531)	16.7	7.2	10.9	50.8	18.6	22.1	53.2	47.0	38.8	3.5	8.0	2.5

(2) 地域活動やボランティア活動等の状況

問 35 あなたは、現在、地域活動（町会、自治会、子供会など、以下同様）やボランティア活動等を行っていますか？（あてはまる番号に1つ）

地域活動やボランティア活動等の状況をたずねた。「現在、継続的にしている（14.3%）」「時々している（9.4%）」と回答した人を合わせると、約2割であった。一方、「したことはない」と回答した人は56.3%であった（図表 1-59）。

図表 1-59 地域活動やボランティア活動等の状況（N=2,691）



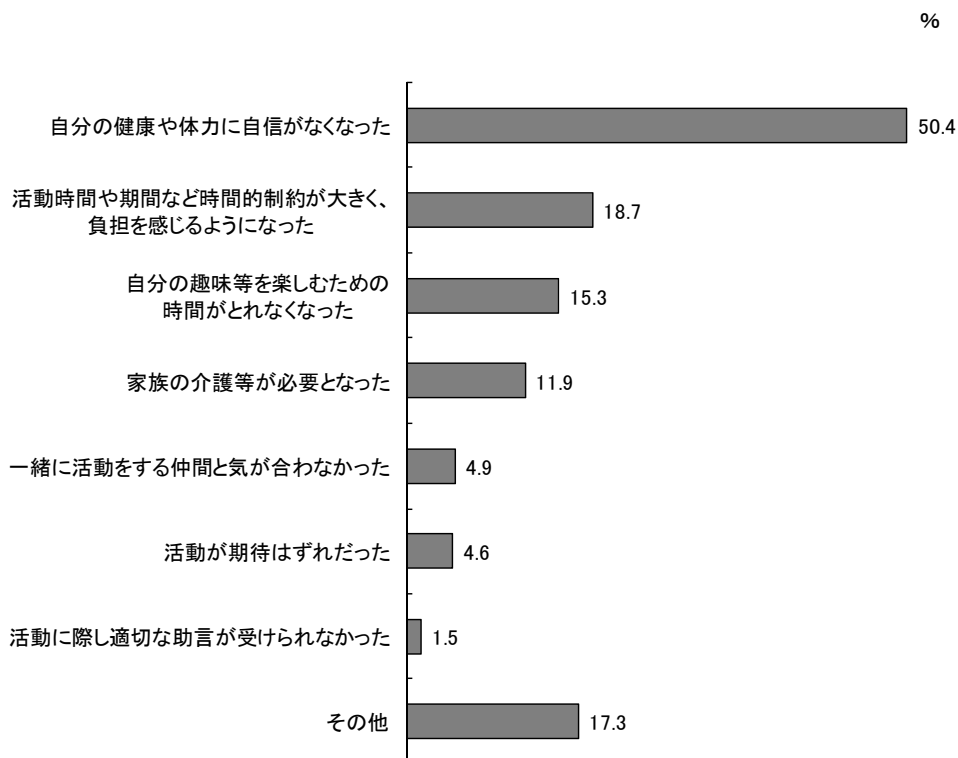
図表 1-60 地域活動やボランティア活動等の状況（性別）

		現在、継続的にしている	時々している	以前したことがあるが、現在はほとんどしていない	したことはない	合計
性別	男性 (N=1,082)	14.5	8.5	14.9	62.1	100.0
	女性 (N=1,492)	15.1	10.6	18.4	55.9	100.0

問 35-1 現在、していない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 35 で、以前したことがあるが、現在はほとんどしていないと回答した人に、現在していない理由をたずねた。「自分の健康や体力に自信がなくなった（50.4%）」が約 5 割であった（図表 1-61）。

図表 1-61 現在、していない理由（複数回答）(N=411)



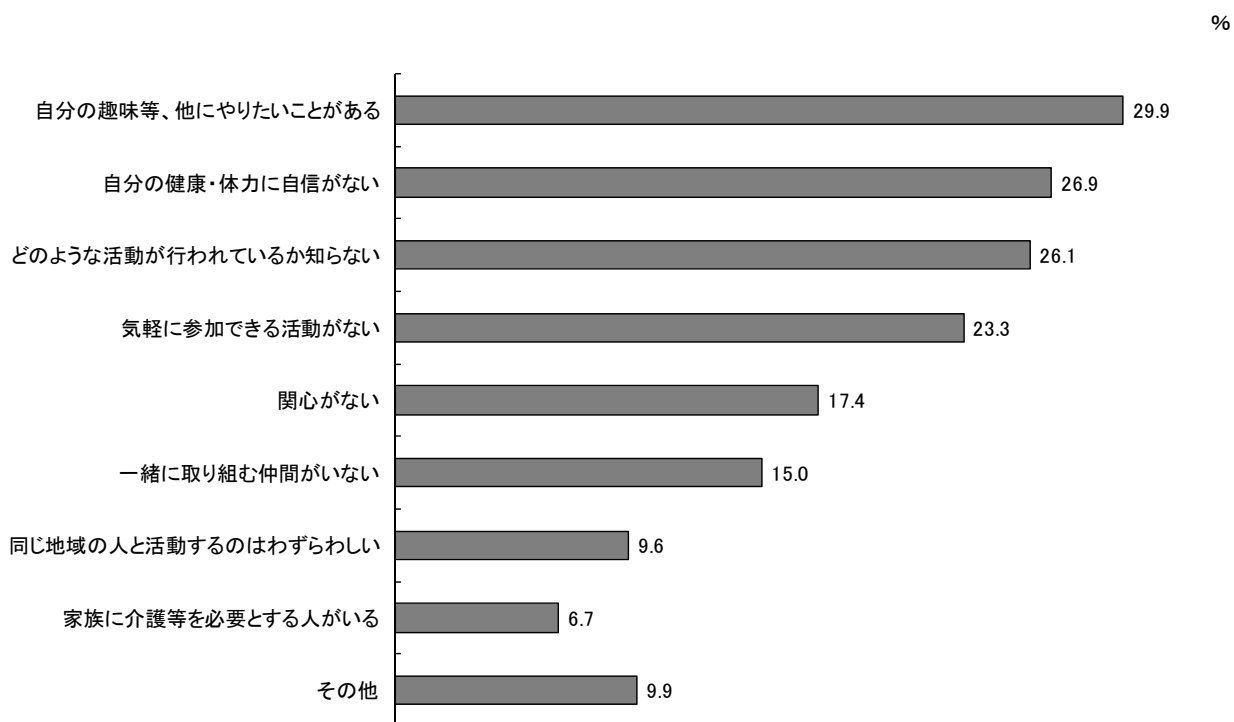
図表 1-62 現在、していない理由（性別 / 複数回答）

		自分の健康や体力に自信がなくなった	家族の介護等が必要となった	自分の趣味等を楽しむための時間がとれなくなった	活動に際し適切な助言が受けられなかった	一緒に活動をする仲間と気が合わなかった	活動が期待はずれだった	活動時間や期間など時間的制約が大きく、負担を感じるようになった	その他
性別	男性 (N=151)	47.0	9.3	15.2	1.3	5.3	7.9	21.9	15.9
	女性 (N=258)	51.9	13.6	15.5	1.6	4.7	2.7	17.1	18.2

問 35-2 したことがない理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 35 で、したことはないと回答した人に、その理由をたずねた。「自分の趣味等、他にやりたいことがある（29.9%）」が最も多く、続いて「自分の健康・体力に自信がない（26.9%）」「どのような活動が行われているか知らない（26.1%）」の順であった（図表 1-63）。

図表 1-63 したことがない理由（複数回答）(N=1,462)



図表 1-64 したことがない理由（性別 / 複数回答）

		関 心 が な い	活 動 が な い に 参 加 で き る	仲 一 間 が に 取 り 組 む	や 自 り 分 た の い 趣 味 こ と 等 が 、 あ 他 る に	自 自 信 が な い 健 康 ・ 体 力 に	と 家 族 に 介 護 を 必 要 と す る 人 が い る	す 同 じ の 地 域 は わ ず ら わ し い	れ ど の よ う な 知 ら な い 活 動 が 行 わ れ て い る	そ の 他
性別	男性 (N=656)	22.7	26.5	17.4	30.3	22.1	4.9	9.1	27.3	8.8
	女性 (N=797)	12.9	20.7	12.9	29.6	31.1	8.3	9.9	24.8	10.8

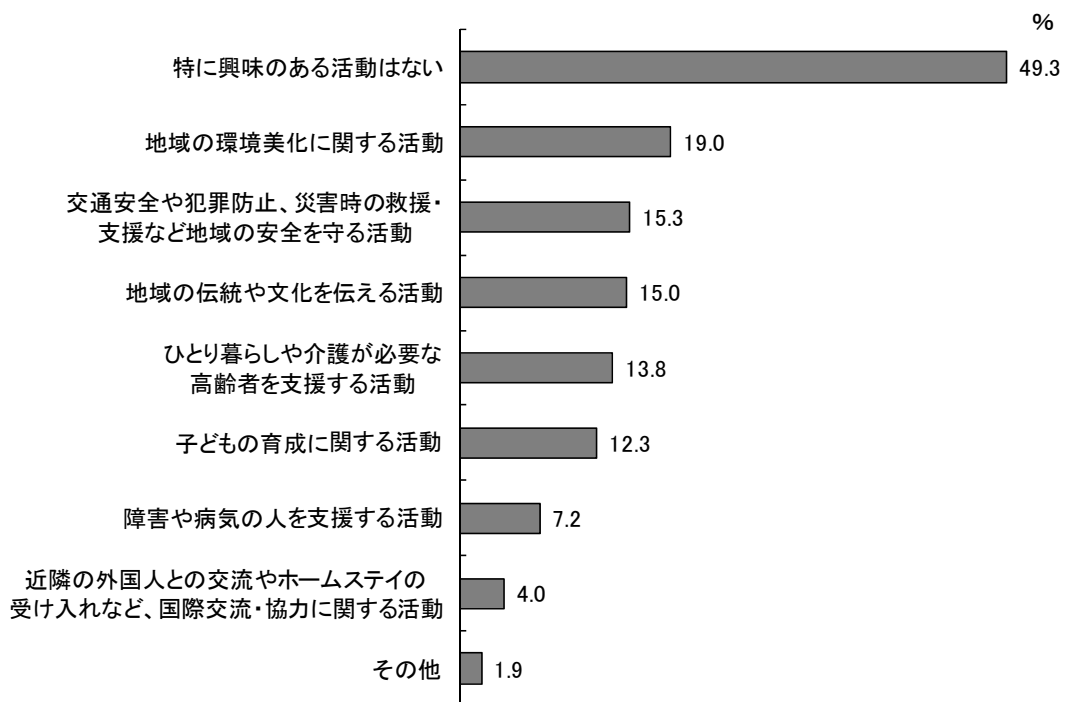
問35-3 興味のある地域活動やボランティア活動等(実際に取り組んでいるものも含む)はありますか？
(あてはまる番号すべてに)

興味のある地域活動やボランティア活動をたずねた。

「特に興味のある活動はない(49.3%)」と回答した人が、約5割であった。

興味のある活動では、「地域の環境美化に関する活動(19.0%)」が最も多く、続いて「交通安全や犯罪防止、災害時の救援・支援など地域の安全を守る活動(15.3%)」「地域の伝統や文化を伝える活動(15.0%)」の順であった(図表1-65)。

図表1-65 興味のある地域活動・ボランティア活動等(複数回答)(N=2,010)



図表1-66 興味のある地域活動・ボランティア活動等(性別/複数回答)

		子どもの育成に関する活動	ひとり暮らしや介護が必要な高齢者を支援する活動	障害や病気の人を支援する活動	守る活動	救済活動	交通安全や犯罪防止、災害時の安全を守る活動	地域の伝統や文化を伝える活動	地域の環境美化に関する活動	流ス・協力の外国人との交流やホームステイの受け入れなど、国際交流に関する活動	特に興味のある活動はない	その他
性別	男性 (N=888)	11.9	7.5	5.5	20.3	16.3	20.0	3.8	52.7	1.7		
	女性 (N=1,115)	12.6	18.8	8.5	11.5	14.1	18.2	4.1	46.4	2.2		

問 35-4 あなたは、今後、地域活動やボランティア活動等をしてみたいですか？
 (あてはまる番号に1つ)

「積極的にしてみたい (4.7%)」「してみたい (22.8%)」と回答した人を合わせると、約 3 割であった (図表 1-67)。

積極的に
 してみたい
 4.7

図表 1-67 地域活動やボランティア活動等の意向 (N=2,691)

%



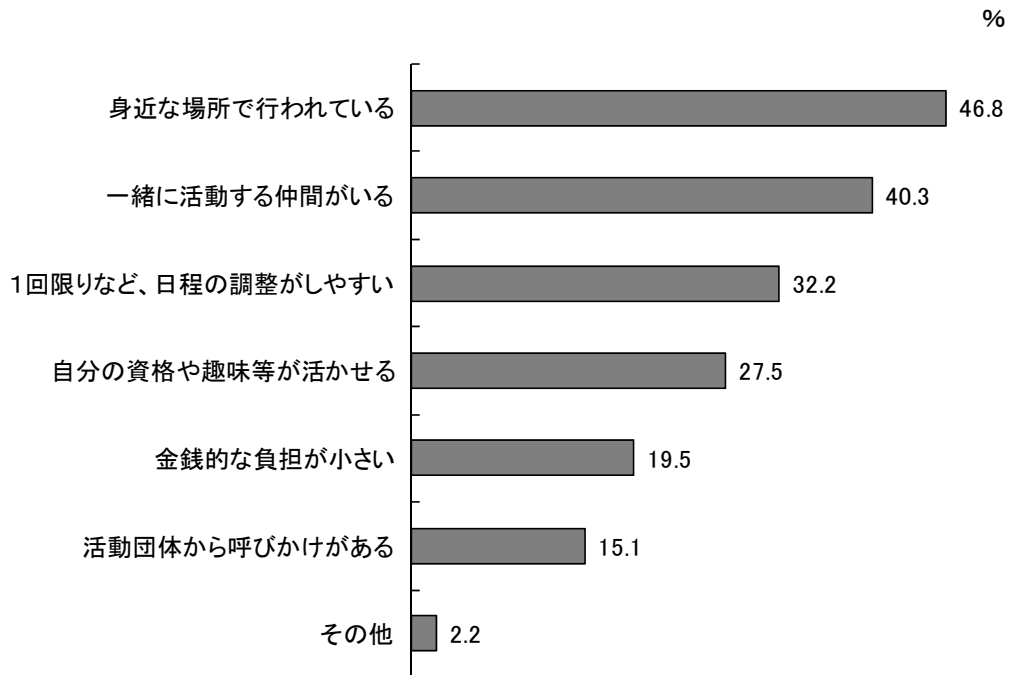
図表 1-68 地域活動やボランティア活動等の意向 (性別)

							(%)
		積極的にしてみたい	してみたい	あまりしたくない	したくない	わからない	合計
性別	男性 (N=1,048)	5.8	27.6	26.5	19.4	20.7	100.0
	女性 (N=1,403)	4.7	23.0	25.3	20.4	26.7	100.0

問 35-5 どのような形であれば、地域活動やボランティア活動等に参加しやすいと思いますか？
（あてはまる番号すべてに ）

参加しやすい、地域活動やボランティア活動等についてたずねた。「身近な場所で行われている（46.8%）」と回答した人が最も多く、続いて「一緒に活動する仲間がいる（40.3%）」「1回限りなど、日程の調整がしやすい（32.2%）」「自分の資格や趣味等が活かせる（27.5%）」の順であった（図表 1-69）。

図表 1-69 参加しやすい活動の形態（複数回答）(N=1,901)



図表 1-70 参加しやすい活動の形態（性別 / 複数回答）

		身近な場所で行われている	一緒に活動する仲間がいる	自分の資格や趣味等が活かせる	活動団体から呼びかけがある	金銭的な負担が小さい	1回限りなど、日程の調整がしやすい	その他
性別	男性 (N=823)	47.1	38.6	30.1	18.7	21.1	25.2	2.1
	女性 (N=1,070)	46.5	41.5	25.6	12.5	18.2	37.7	2.2

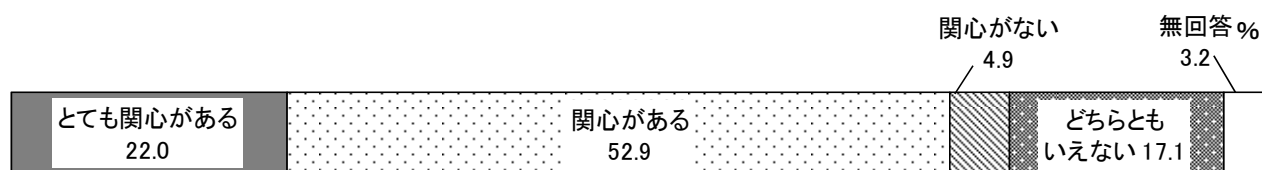
6. 介護予防

(1) 介護予防についての関心

問 36 あなたは、「介護予防」について関心がありますか？（あてはまる番号に1つ）

介護予防についての関心では、「とても関心がある（22.0%）」「関心がある（52.9%）」と回答した人を合わせると、約7割であった。一方、「関心がない」という人は4.9%であった（図表 1-71）。

図表 1-71 介護予防についての関心（N=2,691）



図表 1-72 介護予防についての関心（性別 / 年齢別）

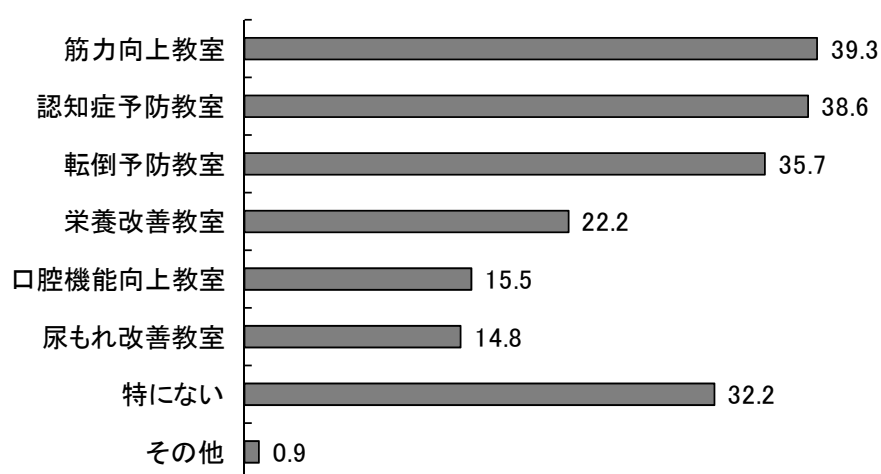
			とても関心がある	関心がある	関心がない	どちらともいえない	合計
性別	男性 (N=1,083)		19.0	54.3	7.6	19.1	100.0
	女性 (N=1,510)		25.3	55.0	3.1	16.6	100.0
年齢	65歳～69歳 (N=798)		23.9	52.4	5.8	17.9	100.0
	70歳～74歳 (N=728)		22.8	55.4	5.6	16.2	100.0
	75歳～79歳 (N=581)		21.2	58.5	2.2	18.1	100.0
	80歳～84歳 (N=335)		21.5	54.6	5.1	18.8	100.0
	85歳～89歳 (N=134)		26.1	46.3	9.0	18.7	100.0
	90歳以上 (N=2)		0.0	50.0	0.0	50.0	100.0

(2) 介護予防のために通ってみたい教室

問 37 以下の介護予防のための教室で、通ってみたいものはありますか？
(あてはまる番号すべてに)

介護予防のために通ってみたい教室では、「筋力向上教室 (39.3%)」と回答した人が最も多く、続いて「認知症予防教室 (38.6%)」「転倒予防教室 (35.7%)」の順であった。一方、「特にない」と回答した人は 32.2%であった (図表 1-73)。

図表 1-73 介護予防のために通ってみたい教室(複数回答)(N=2,423) %



(参考)

教室名	内容
筋力向上教室	眠っている筋肉と神経を覚まし、日常生活に必要な身体能力を向上させる教室
転倒予防教室	筋力、バランス、柔軟性、歩行能力を改善し、転倒しにくい体をつくる教室
栄養改善教室	食事の工夫を学び、それを実践するプログラムを通して栄養の改善を図る教室
口腔機能向上教室	いつまでも美味しく安全に食べられるために、口腔ケアや顔面体操等を行い、お口の健康度を高める教室
尿もれ改善教室	くしゃみや咳、走った時など腹圧がかかったときに尿が漏れる腹圧性尿失禁を予防・改善する教室(女性対象)
認知症予防教室	認知機能を高めるプログラムと脳の血流を良くする運動プログラム等を通じて、脳の活性化を図る教室

7. 介護が必要になったときのこと

(1) 高齢者総合相談センターについての認知度

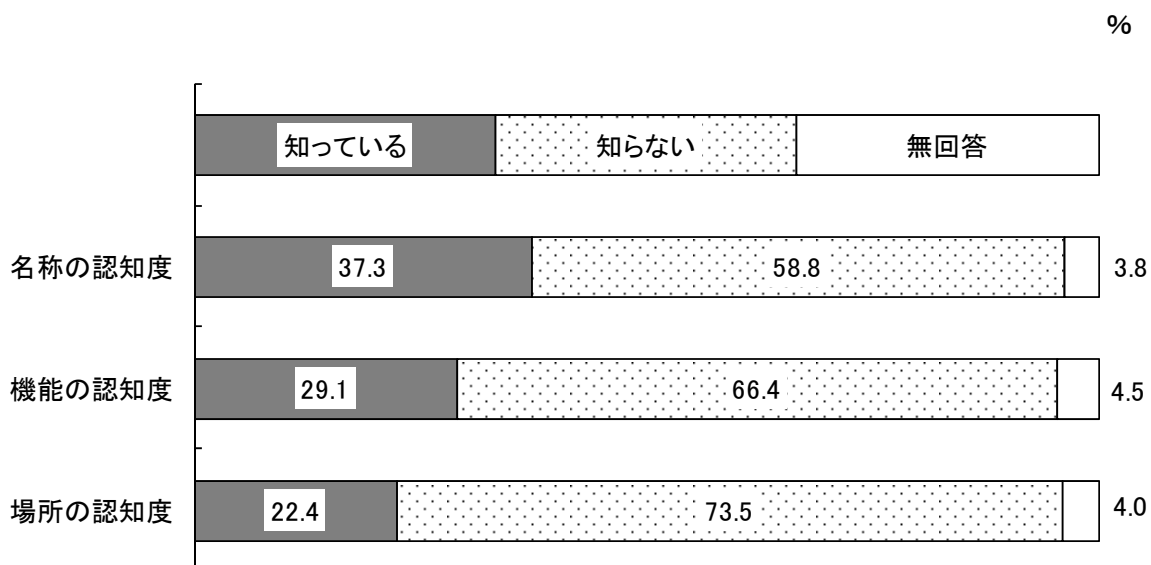
問 38-1 「高齢者総合相談センター」の名称をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 38-2 「高齢者総合相談センター」が何をする機関かご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

問 38-3 あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるかご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

高齢者総合相談センターについて、名称、機能、場所についてそれぞれ「知らない」と回答した人は、58.8%、66.4%、73.5%であった（図表 1-74）。

図表 1-74 高齢者総合相談センターの認知度（名称・機能・場所）(N=2,691)



(2) 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らしたいか

問 39 あなたは、介護が必要になった場合、今のお住まいで生活を続けたいと思いますか？
 (あてはまる番号に1つ)

介護が必要になったときの住まい方について、「ずっと自宅で生活を続けたい(17.8%)」「可能な限り自宅で生活を続けたい(49.1%)」と回答した人を合わせると、約7割であった。一方、「施設へ入居したい」という人は12.7%であった(図表1-75)。

(平成19年度調査との比較)

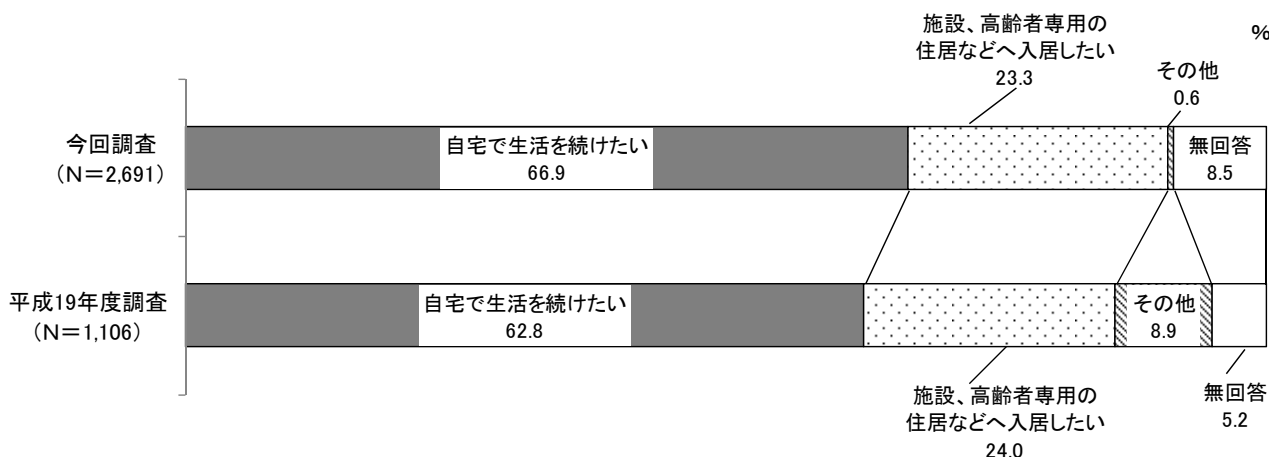
平成19年度調査では、自宅での生活を望む人は、「介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい(38.9%)」「介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい(19.7%)」「主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい(4.2%)」を合わせて、62.8%であった。

今回調査では、「ずっと自宅で生活を続けたい(17.8%)」と「可能な限り自宅で生活を続けたい(49.1%)」を合わせると66.9%と、自宅での生活を望む人は増加する傾向となった(図表1-75)(図表1-76)。

図表 1-75 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか(平成19年度調査との比較)

今回調査(N=2,691)	%	平成19年度調査(N=1,106)	%
ずっと自宅で生活を続けたい	17.8	介護保険の範囲でサービスを利用して自宅で生活したい	38.9
可能な限り自宅で生活を続けたい	49.1	介護保険の範囲を超えても、自己負担できる程度の量までサービスを利用して自宅で生活したい	19.7
施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい	12.7	主に家族の介護を受け、介護サービスをあまり利用しないで自宅で生活したい	4.2
介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい	11.3	特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい	17.3
その他	0.6	有料老人ホームなどを利用したい	6.0
無回答	8.5	わからない	8.9
		無回答	5.2

図表 1-76 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか(平成19年度調査との比較)



図表 1-77 介護が必要になった場合、今の住まいで暮らし続けたいか（年齢別）

(%)

		ずっと自宅で生活を続けたい	可能な限り自宅で生活を続けたい	施設(特別養護老人ホームなど)へ入居したい	介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居(有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など)に入居したい	その他	合計
年齢	65歳～69歳 (N=761)	17.0	53.2	15.1	14.1	0.7	100.0
	70歳～74歳 (N=687)	19.1	54.4	12.1	13.4	1.0	100.0
	75歳～79歳 (N=544)	18.6	54.8	14.5	11.8	0.4	100.0
	80歳～84歳 (N=310)	24.5	49.7	15.8	9.4	0.6	100.0
	85歳～89歳 (N=128)	28.9	52.3	11.7	7.0	0.0	100.0
	90歳以上 (N=3)	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	100.0

問 39-1 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに ）

問 39 で施設や高齢者専用の住居に入居したい、と回答した人にその理由をたずねた。

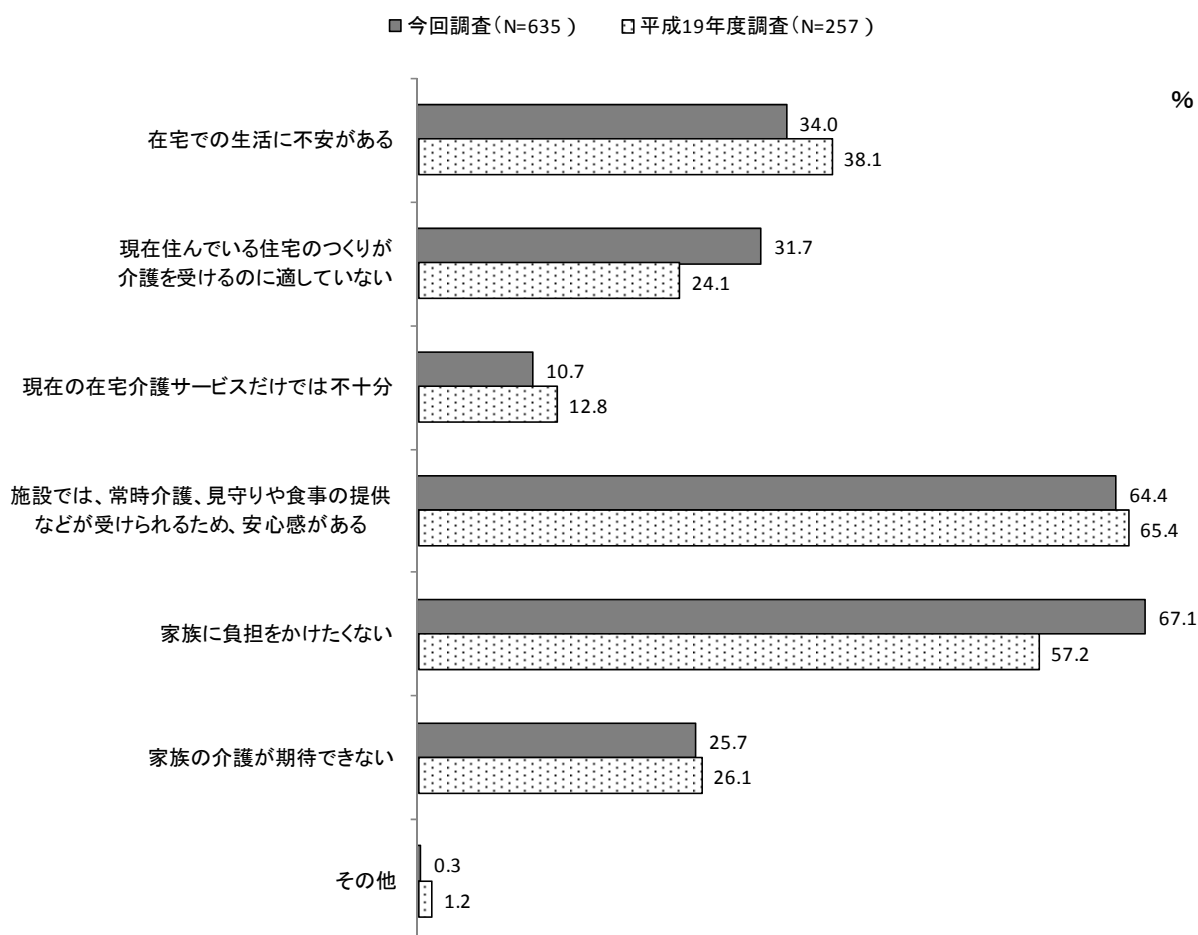
「家族に負担をかけたくない（67.1%）」が最も多く、次いで「施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられるため、安心感がある（64.4%）」であった（図表 1-78）。

（平成 19 年度調査との比較）

平成 19 年度調査と比較すると、「家族に負担をかけたくない」が、57.2%から 67.1%に大きく増加した。

また、「現在住んでいる住宅のつくりが介護を受けるのに適していない」が、24.1%から 31.7%に増加したが、「在宅での生活に不安がある」は、38.1%から 34.0%と減少した（図表 1-78）。

図表 1-78 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（平成 19 年度調査との比較/複数回答）



図表 1-79 施設や高齢者専用の住居に入居したい理由（年齢別／複数回答）

(%)

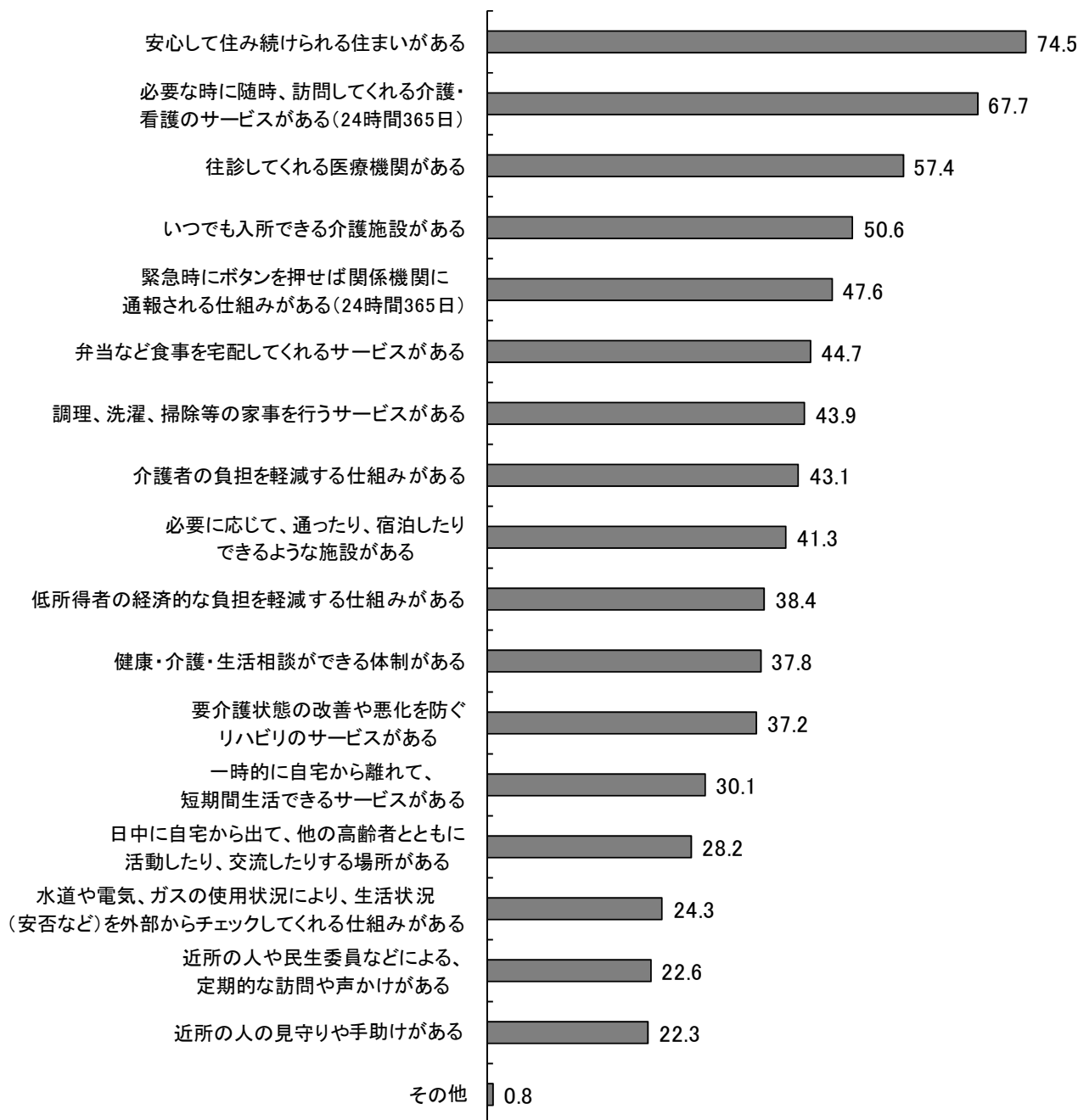
		在宅での生活に不安がある	現在住んでいる住宅のつくりが、介護を受けるのに適していない	現在の在宅介護サービスだけでは不十分	施設では、常時介護、見守りや食事の提供などが受けられないため、安心感がある	家族に負担をかけたくない	家族の介護が期待できない	その他
年齢	65歳～69歳 (N=216)	31.9	31.0	9.7	63.4	69.0	25.0	0.0
	70歳～74歳 (N=175)	34.3	38.3	15.4	64.0	68.6	28.6	0.0
	75歳～79歳 (N=140)	34.3	27.9	8.6	67.9	64.3	25.7	1.4
	80歳～84歳 (N=77)	32.5	27.3	7.8	64.9	64.9	20.8	0.0
	85歳～89歳 (N=24)	54.2	20.8	8.3	62.5	62.5	29.2	0.0
	90歳以上 (N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 40 介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるためには、何が必要だと思いますか？
 (あてはまる番号すべてに)

介護が必要になっても、在宅で暮らし続けるための必要なことをたずねた。「安心して住み続けられる住まいがある(74.5%)」と回答した人が最も多く、次いで「必要な時に随時、訪問してくれる介護・看護のサービスがある(24時間365日)(67.7%)」「往診してくれる医療機関がある(57.4%)」の順であった(図表 1-80)。

図表 1-80 在宅で暮らし続けるために必要なこと(複数回答)(N=2,451)

%



図表 1-81 在宅で暮らし続けるために必要なこと（年齢別／複数回答）

		安心して住み続けられる住まいがある	近所の人の見守りや手助けがある	（24時間365日） 必要な時に随時、訪問してくれる 介護・看護のサービスがある	場にも活動したり、交流したりする 場所がある	日中に自宅から出て、他の高齢者とも もに活動したり、交流したりする	リ要的介護状態の改善や悪化を防ぐリハビ リのサービスがある	生一時的に自宅から離れて、短期間 生活できるサービスがある	できるような施設がある 必要に応じて、通ったり、宿泊したり	いつでも入所できる介護施設がある	往診してくれる医療機関がある
年齢	65歳～69歳 (N=765)	72.0	20.8	73.9	30.2	40.0	31.8	45.5	54.9	58.7	
	70歳～74歳 (N=676)	76.8	22.6	66.6	32.1	38.8	32.2	44.1	50.3	57.5	
	75歳～79歳 (N=544)	73.5	22.6	67.3	28.5	36.9	27.2	38.4	51.3	57.2	
	80歳～84歳 (N=311)	77.8	25.7	64.0	21.5	30.5	30.2	36.0	45.3	56.9	
	85歳～89歳 (N=124)	74.2	19.4	54.0	12.9	30.6	21.8	29.0	37.9	54.0	
	90歳以上 (N=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
年齢	65歳～69歳 (N=765)	46.7	45.9	40.1	22.0	24.3	49.9	45.9	44.4	0.8	
	70歳～74歳 (N=676)	46.2	44.1	38.5	21.2	24.4	49.1	43.8	38.9	0.4	
	75歳～79歳 (N=544)	43.8	43.8	37.5	26.1	26.1	47.8	42.3	39.3	1.3	
	80歳～84歳 (N=311)	42.1	42.1	34.7	23.8	24.4	43.1	40.2	27.7	0.6	
	85歳～89歳 (N=124)	37.1	41.1	30.6	17.7	16.9	37.1	34.7	24.2	0.8	
	90歳以上 (N=3)	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	

8. 介護保険制度

問 41 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに一番近いのはどれですか？
(あてはまる番号に1つ)

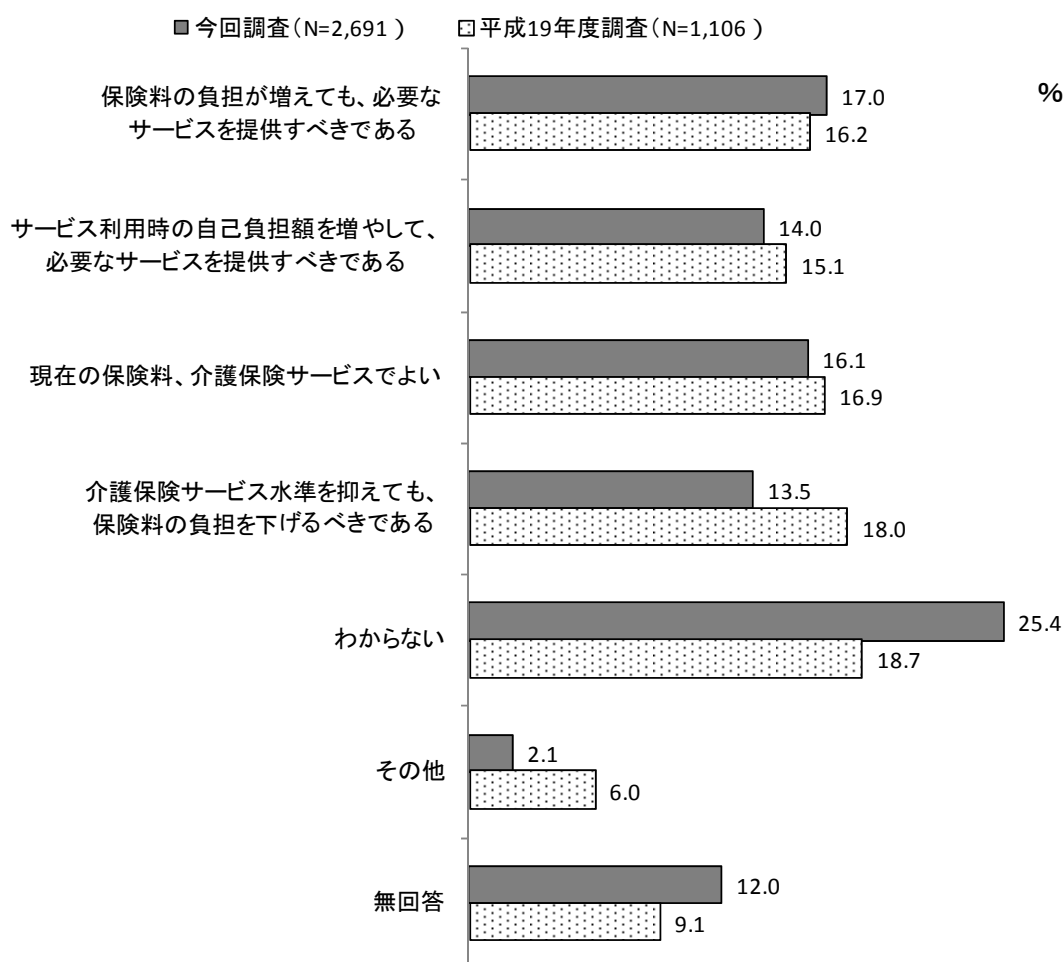
介護保険サービスと保険料についての考えでは、「わからない(25.4%)」と回答した人が最も多かった。また「保険料の負担が増えても、必要なサービスを提供すべきである」は17.0%、「介護保険サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである」は13.5%であった(図表1-82)。

(平成19年度調査との比較)

平成19年度調査と比較すると、「介護サービス水準を抑えても、保険料の負担を下げるべきである」が、18.0%から13.5%と減少した。

一方、「わからない」は18.7%から25.4%に増加した(図表1-82)。

図表1-82 介護保険サービスと保険料についての考え(平成19年度調査との比較)



図表 1-83 介護保険サービスと保険料についての考え（世帯年収別）

(%)

		必要なサービスを提供すべき	サービスを利用時の自己負担額を増やして、必要なサービスを提供すべきである	現在の保険料、介護保険サービスでよい	介護保険サービス水準を下げても、保険料の負担を下げなければならない	わからない	その他	合計
世帯の年収（税込）	80万円未満 (N=118)	5.9	5.1	22.0	22.9	42.4	1.7	100.0
	80万円以上200万円未満 (N=448)	12.9	9.8	22.8	20.1	33.3	1.1	100.0
	200万円以上300万円未満 (N=499)	17.8	11.8	24.4	17.2	26.3	2.4	100.0
	300万円以上500万円未満 (N=517)	24.0	19.1	14.9	12.2	26.1	3.7	100.0
	500万円以上 700万円未満 (N=250)	22.4	26.4	13.2	11.6	22.0	4.4	100.0
	700万円以上1000万円未満 (N=153)	26.8	28.1	15.7	9.2	19.0	1.3	100.0
	1000万円以上 (N=160)	28.1	27.5	11.9	6.9	23.1	2.5	100.0
	わからない (N=106)	15.1	7.5	13.2	18.9	44.3	0.9	100.0

9. 認知症

(1) 記憶力等の変化

問 42 あなたは、ここ6か月から1年の間に、物忘れに加えて、理解・判断力の低下などを感じる
ことがありますか？（あてはまる番号に1つ）

ここ6か月から1年の間に、物忘れや理解・判断力の低下などを感じるものが「ある」と回答した人は37.4%であり、「ない」と回答した人は59.3%であった（図表 1-84）。

図表 1-84 物忘れ、理解・判断力の低下などの有無（N=2,691）



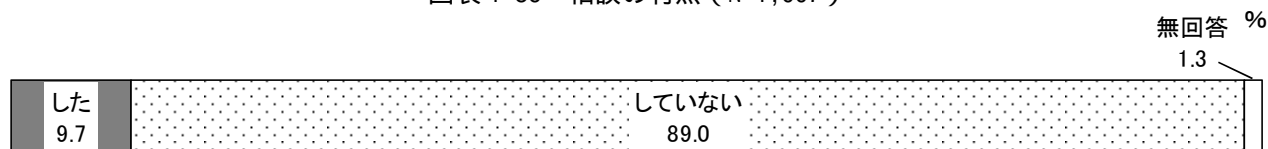
図表 1-85 物忘れ、理解・判断力等の低下の有無（年齢別）
(%)

		ある	ない	合計
年齢	65歳～69歳 (N=794)	30.5	69.5	100.0
	70歳～74歳 (N=721)	38.0	62.0	100.0
	75歳～79歳 (N=583)	42.4	57.6	100.0
	80歳～84歳 (N=339)	47.8	52.2	100.0
	85歳～89歳 (N=135)	50.4	49.6	100.0
	90歳以上 (N=2)	50.0	50.0	100.0

**問 42-1 物忘れや理解・判断力の低下などについてどこかへ相談しましたか？
(あてはまる番号に1つ)**

問 42 で「ある」と回答した人に、相談状況をたずねた。
相談を「していない (89.0%)」と回答した人が、約 9 割であった (図表 1-86)。

図表 1-86 相談の有無 (N=1,007)



図表 1-87 相談の有無 (年齢別)

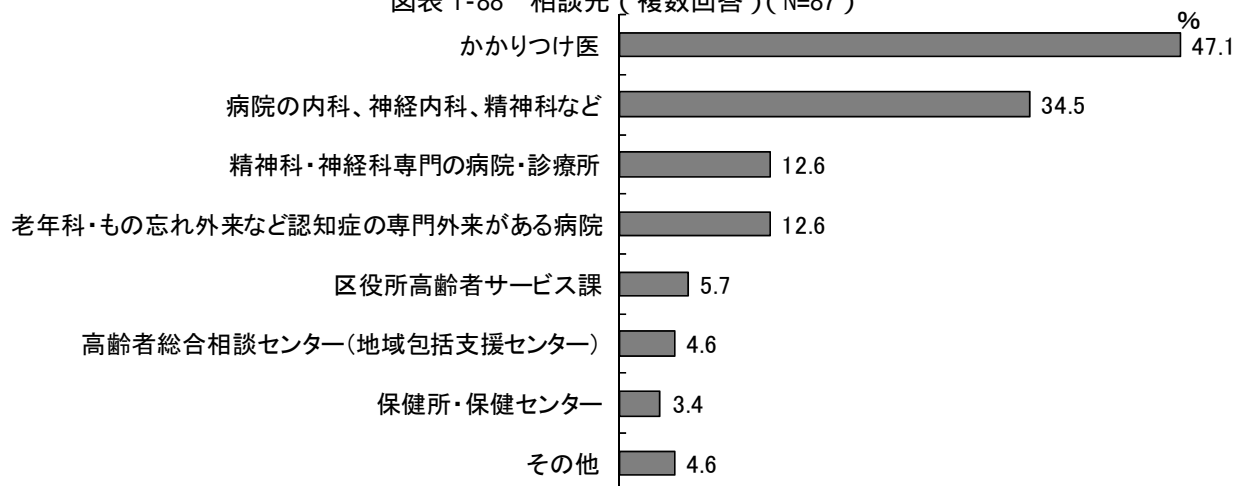
(%)

		した	していない	合計
年齢	65歳～69歳 (N=794)	5.4	94.6	100.0
	70歳～74歳 (N=721)	8.9	91.1	100.0
	75歳～79歳 (N=583)	18.3	81.7	100.0
	80歳～84歳 (N=339)	5.7	94.3	100.0
	85歳～89歳 (N=135)	7.4	92.6	100.0
	90歳以上 (N=2)	0.0	100.0	100.0

問 42-2 どちらに相談しましたか？ (あてはまる番号すべてに)

問 42-1 で「相談した」と回答した人に、相談先をたずねた。「かかりつけ医 (47.1%)」が最も多く、次いで「病院の内科、神経内科、精神科など (34.5%)」であった (図表 1-88)。

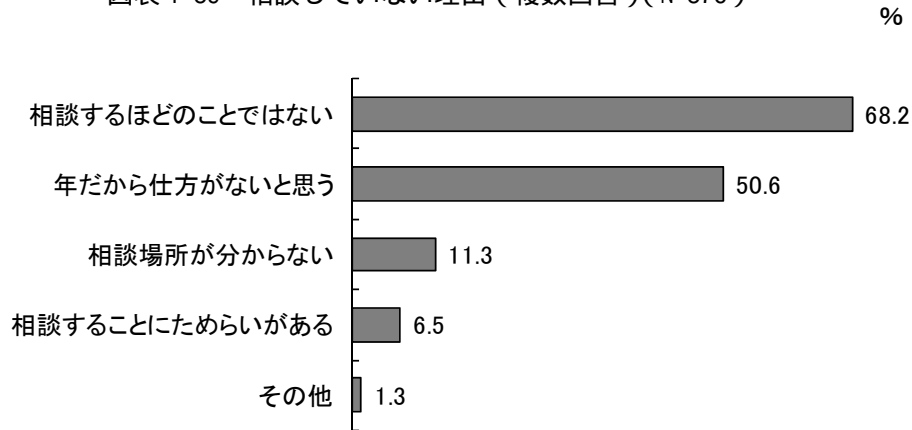
図表 1-88 相談先 (複数回答) (N=87)



問 42-3 相談していない理由はどれですか？（あてはまる番号すべてに）

問 42-1 で「相談していない」と回答した人に、その理由をたずねた。「相談するほどのことではない（68.2%）」が約 7 割と最も多く、次いで「年だから仕方がないと思う（50.6%）」であった（図表 1-89）。

図表 1-89 相談していない理由（複数回答）(N=876)



図表 1-90 相談していない理由（年齢別 / 複数回答）

		が年 なだ いか ら思 仕 う方	こ相 と談 です はる なほ いど の	た相 め談 らす いる がこ あと るに	分相 か談 ら場 な所 いが	そ の 他
年 齢	65歳～69歳 (N=224)	44.2	72.8	7.1	12.9	2.2
	70歳～74歳 (N=239)	44.4	74.5	5.9	13.8	0.8
	75歳～79歳 (N=193)	53.4	65.3	6.2	10.9	0.5
	80歳～84歳 (N=146)	63.7	54.8	8.9	6.8	1.4
	85歳～89歳 (N=63)	61.9	68.3	1.6	9.5	1.6
	90歳以上 (N=1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(2) 若年性認知症の認知度

問 43 あなたは、「若年性認知症」という病気をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

若年性認知症について、「知っている」という人は64.7%であり、「知らない」という人は9.8%であった（図表 1-91）。

図表 1-91 若年性認知症の認知度（N=2,691）

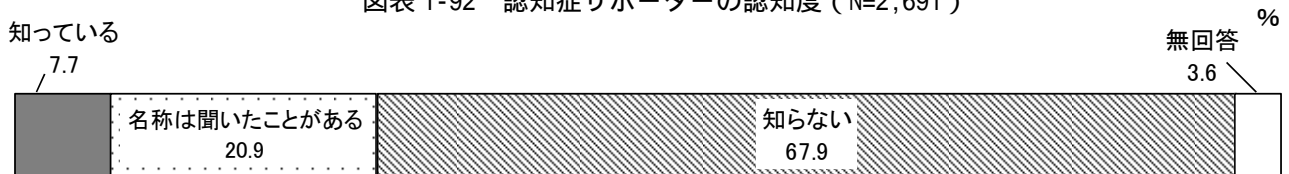


(3) 認知症サポーター

問 44 あなたは、「認知症サポーター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

認知症サポーターについて、「知らない」という人は67.9%であり、「知っている」という人は7.7%であった（図表 1-92）。

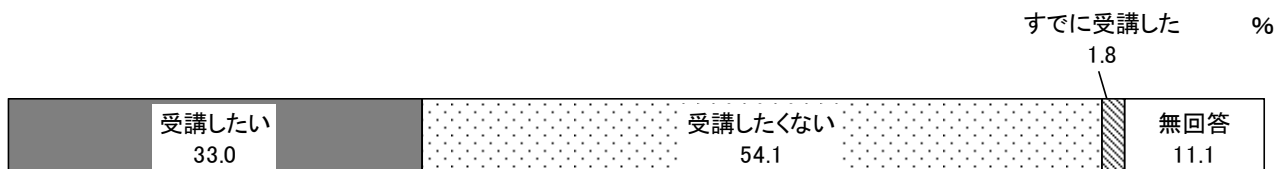
図表 1-92 認知症サポーターの認知度（N=2,691）



問 45 あなたは、「認知症サポーター養成講座」を受講したいと思いませんか？（あてはまる番号に1つ）

認知症サポーター養成講座について、「受講したい」と回答した人は33.0%、「受講したくない」は54.1%であった（図表 1-93）。

図表 1-93 認知症サポーター養成講座の受講意向（N=2,691）



図表 1-94 認知症サポーター養成講座の受講意向（年齢別）

(%)

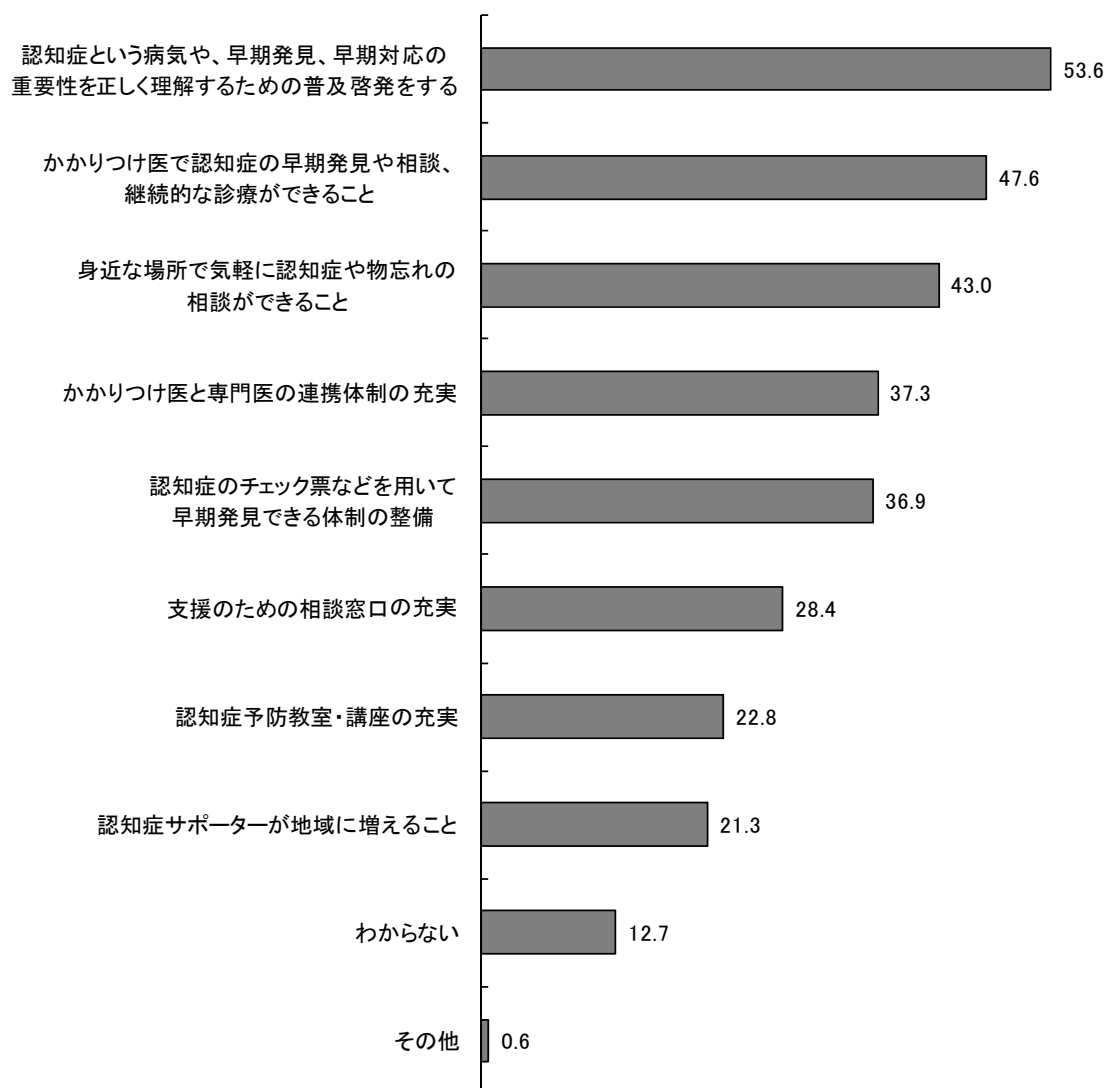
		受講したい	受講したくない	すでに受講した	合計
年齢	65歳～69歳 (N=741)	44.7	53.4	1.9	100.0
	70歳～74歳 (N=661)	40.5	57.3	2.1	100.0
	75歳～79歳 (N=539)	33.8	64.4	1.9	100.0
	80歳～84歳 (N=306)	24.2	73.5	2.3	100.0
	85歳～89歳 (N=116)	18.1	79.3	2.6	100.0
	90歳以上 (N=3)	33.3	66.7	0.0	100.0

(4) 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと

問 46 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実にために、何が必要だと思いますか？
(あてはまる番号すべてに)

認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なことでは、「認知症という病気や、早期発見、早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発をする(53.6%)」と回答した人が最も多く、続いて「かかりつけ医で認知症の早期発見や相談、継続的な診療ができること(47.6%)」「身近な場所で気軽に認知症や物忘れの相談ができること(43.0%)」の順であった(図表 1-95)。

図表 1-95 認知症の早期発見・早期対応や支援体制の充実に必要なこと(複数回答)(N=2,458) %



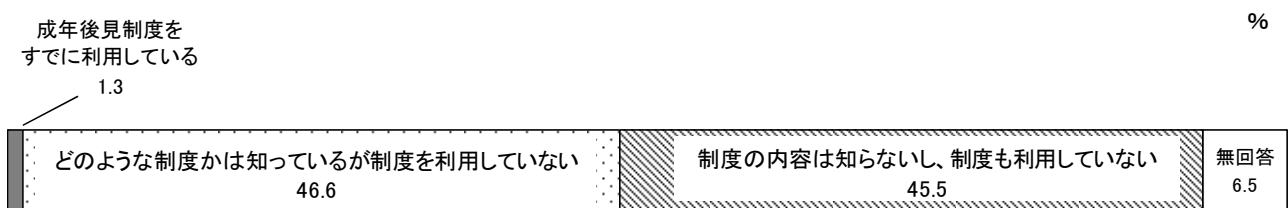
10. 権利擁護

(1) 成年後見制度の認知度

問 47 あなたは、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない人の権利を守る、「成年後見制度」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「どのような制度かは知っているが、制度を利用していない（46.6%）」「制度の内容は知らないし、制度も利用していない（45.5%）」と回答した人が、それぞれ約半数であった（図表 1-96）。

図表 1-96 成年後見制度の認知度（N=2,691）

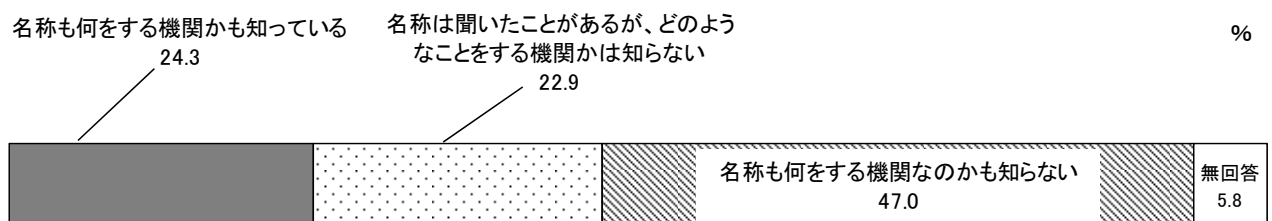


(2) 新宿区成年後見センターの認知度

問 48 あなたは、「新宿区成年後見センター」をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

「名称も、何をする機関かも知っている」と回答した人は 24.3%であり、「名称も何をする機関なのかも知らない」と回答した人は 47.0%であった（図表 1-97）。

図表 1-97 新宿区成年後見センターの認知度（N=2,691）

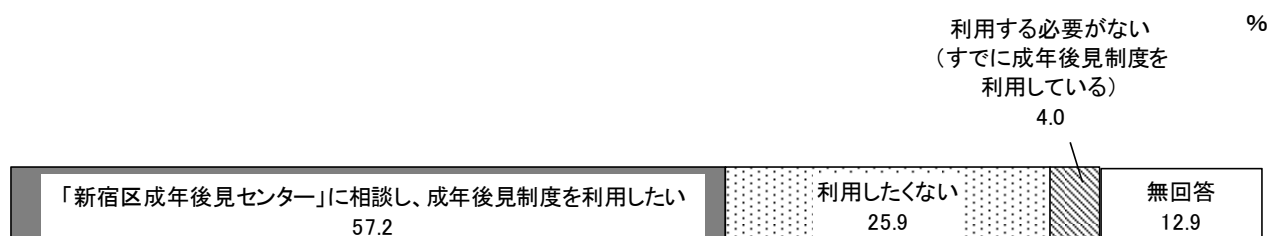


(3) 新宿区成年後見センターの利用意向

問 49 あなたやご家族が、認知症などによって判断能力が十分でなくなってきた場合に、「新宿区成年後見センター」に相談し、成年後見制度を利用したいと思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

新宿区成年後見センターの事業説明をしたうえで、利用意向をたずねた。「新宿区成年後見センターに相談し、成年後見制度を利用したい(57.2%)」と回答した人は、約6割であった(図表1-98)。

図表 1-98 新宿区成年後見センターの利用意向 (N=2,691)



1.1. 緊急時の避難など

(1) 災害時にひとりで避難できるか

問 50 あなたは、災害時や火災など緊急時に、ひとりで避難できると思いますか？
(あてはまる番号に1つ)

「できる」と回答した人は 82.7%、「できない」と回答した人は 12.5%であった(図表 1-99)。

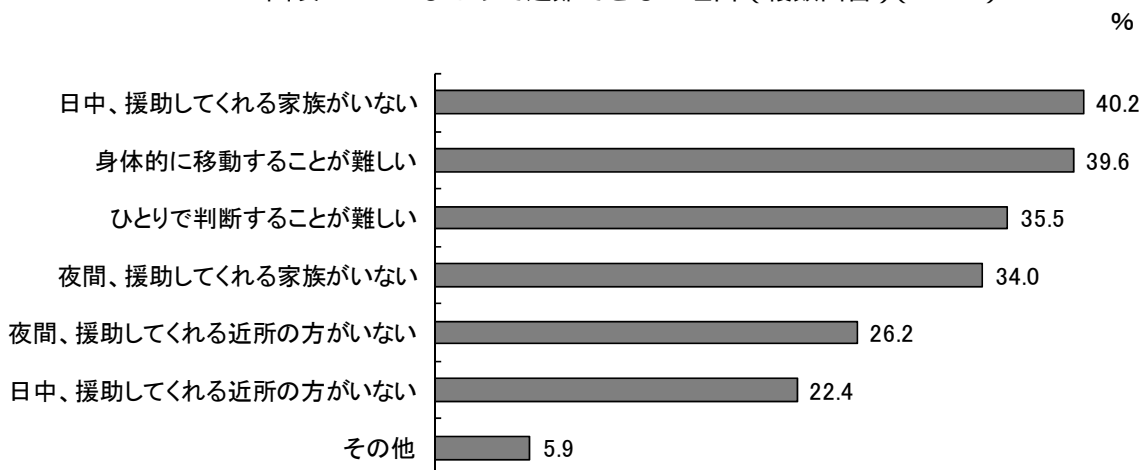
図表 1-99 ひとりで避難できるか (N=2,691)



問 50-1 ひとりで避難できない理由は何ですか？ (あてはまる番号すべてに)

問 50 で、ひとりで避難できないと回答した人に、その理由をたずねた。「日中、援助してくれる家族がいない (40.2%)」と回答した人が最も多く、次いで「身体的に移動することが難しい (39.6%)」であった (図表 1-100)。

図表 1-100 ひとりで避難できない理由 (複数回答) (N=321)

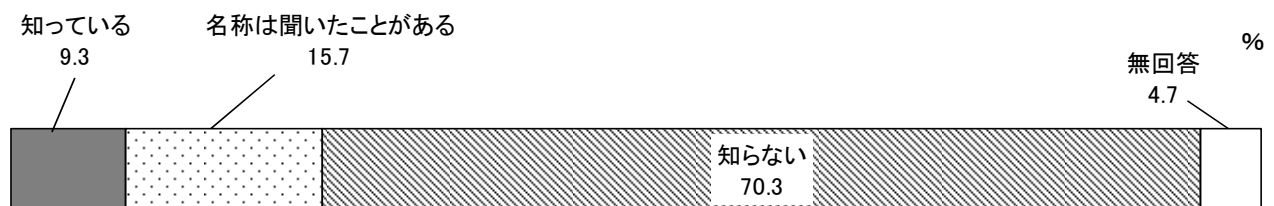


(2) 災害時要援護者登録名簿について

問 51 区では、高齢者の方など、災害発生時に自分の身を守ることが困難な方々を対象に、ご本人やご家族・ご親族からの申し出により、災害時要援護者登録名簿を作成しています。この名簿は、消防署、警察署や民生・児童委員等に配付し、救出救護や避難誘導に役立てます。あなたは、このような制度をご存じですか？（あてはまる番号に1つ）

災害時要援護者登録名簿の認知度について、「知らない（70.3%）」と回答した人は、約 7 割であった（図表 1-101）。

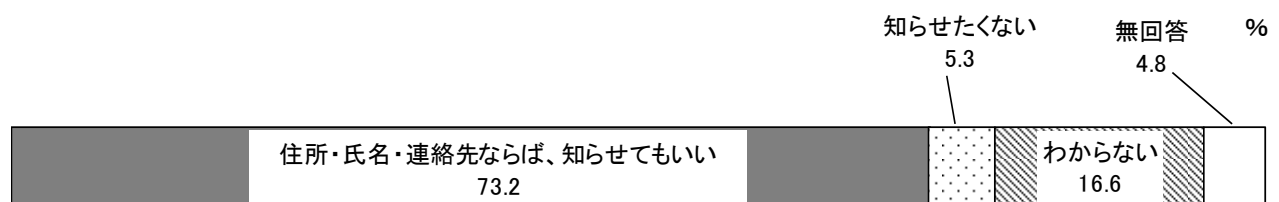
図表 1-101 災害時要援護者登録名簿の認知度（N=2,691）



問 52 災害など緊急時に備えて、区役所、消防署、警察署や民生・児童委員等に、住所・氏名・連絡先などの情報を事前に知らせておくことについて、どう思いますか？（あてはまる番号に1つ）

災害などの緊急時に備えて、事前に情報を知らせておくことについて、「住所・氏名・連絡先ならば、知らせてもいい（73.2%）」と回答した人は、約 7 割であった（図表 1-102）

図表 1-102 災害など緊急時に備えて、事前の情報登録への意向（N=2,691）

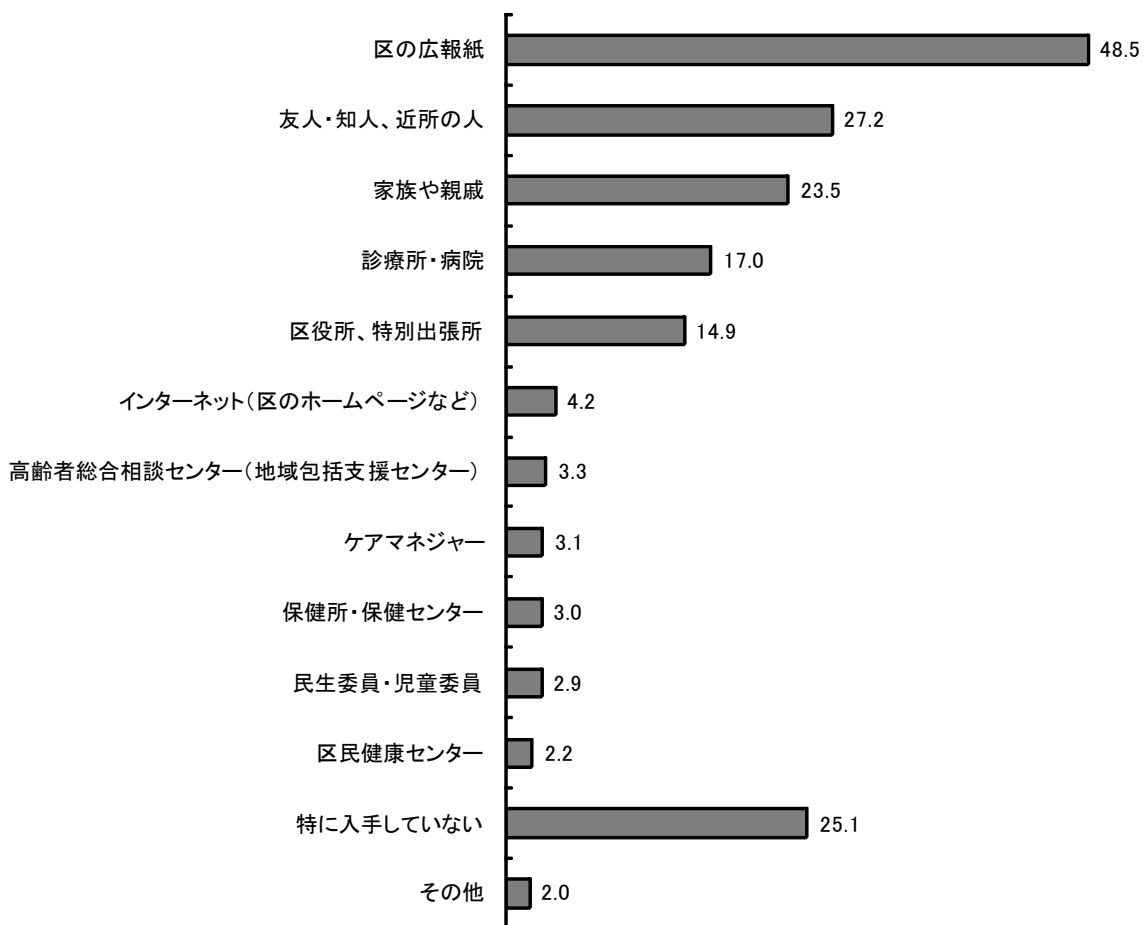


12. 情報入手

問 53 あなたは日ごろ、健康や福祉サービスに関する情報をどのような手段で入手していますか？
(あてはまる番号すべてに)

健康や福祉サービスに関する情報の入手手段では、「区の広報紙（48.5%）」と回答した人が、約5割と最も多く、続いて「友人・知人、近所の人（27.2%）」「家族や親戚（23.5%）」の順であった。一方「特に入手していない」と回答した人は25.1%であった（図表 1-103）。

図表 1-103 健康や福祉サービスに関する情報入手手段（複数回答）(N=2,577) %



自由記述から（一般高齢者）

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区への要望・ご意見が500件あった。主な内容は以下のとおりである。

住まいに関すること（22件）

- ・安心して住めるような貸借住宅があればいい。
- ・都営住宅等公共住宅になかなか入居できない。
- ・家賃の安い住宅（高齢者用）を充実して欲しいと思います。
- ・年齢で不動産契約を断られた。
- ・高齢者向けの住宅を多く提供できるようにして欲しい。
- ・不動産屋との間に入って話し合ってくれる人が欲しい。
- ・住みなれた所にできるだけいたい。

介護保険制度・介護保険サービスに関すること（243件）

- ・介護保険の収支がどの様に使われているか知りたい。
- ・介護を受ける側も判断、認定する側ももう少し現実的な実施をしないと、介護保険料をいくら上げても将来的に持続きしないのではないかと危惧している。
- ・要支援や要介護になったら在宅と施設を両方必要に応じて利用できる施策を望む。費用は消費税の増額。
- ・北欧なみの在宅介護の充実。
- ・利用したい時に望む通りに利用出来る介護体制が必要です。
- ・所得の低い人の保険料はあげるべきでない。
- ・介護保険、自己負担を増やし、利用していない者の保険料を下げたい。
- ・年金の中から介護保険料を引かれる事がつらい。
- ・介護保険を今まで一度も使っていません。ぎりぎり住民税を課税されているため保険料がきついです。70歳以上の者にはその年に保険を使わなかった場合、翌年の保険料は1割程度割引してもらいたいと思います。
- ・保険料についてもっと若年より開始して、70才で終了するような方法を提案したいと思います。
- ・充実した介護を受けられるなら保険料の上昇もやむを得ないと思う。
- ・介護を受ける際の費用が心配。
- ・介護保険料をおさめていても利用するとき金銭的な理由により利用をあきらめる事がない様にしたい。
- ・福祉施設はユニット型がいいと思う。命つきる日迄1人の自分で過ごしたいから。
- ・家族と同居している人には介護保険は冷たいと思う。
- ・介護を受ける立場になった時、どの程度のサービスが受けられるか情報提供をしっかりとしてほしい。
- ・今後、寝たきり病人を増やさないためにも、要支援の充実は不可欠なものである。老人が安心して現在の場での暮らしを続けていけるよう、打ち切りなど絶対にしないでいただきたい。
- ・介護者の負担の大きな要介護者のショートステイが思うようにとれない状況ときいています。
- ・希望する介護施設にタイムリーに入所できる体制の充実を希望。

ヘルパーなど人材育成や待遇に関すること(7件)

- ・介護職の増加と報酬を考えて欲しい。
- ・介護して下さる人に対する報酬が少ない。仕事内容に見合った収入とすることで介護の質の向上につながれば望ましい。
- ・訪問医師の増加、訪問看護師の増加をお願いしたい。
- ・介護保険料を上げずに、介護分野で働く方の報酬を上げる方法を考えて欲しい。

介護者への支援に関すること(3件)

- ・介護家族をもっと手厚く保護した方が良いように思います。
- ・介護する高齢者に対しても考慮する必要があるのではないか。

医療などに関すること(45件)

- ・医療費を上げないでほしい。
- ・在宅療養が十分に実施出来るような施策を精力的に実行すべきものと思う。
- ・自宅での療養を希望した時に、具体的にどこの医療機関が対応してくれるのか、マップがあるとありがたい。
- ・救急車を呼んで病院さがすのにとっても時間がかかり、受け入れてくれる所がない。病院を出されても受け入れてくれる施設がない。
- ・長期に入院できる病院がない。
- ・うつ病に対する理解と支援が必要。
- ・認知症専門機関が少ない。
- ・かかりつけ医を紹介して欲しい。
- ・現在の制度では保証人がいないと治療に必要なお金を持っていても手術はおろか入院もさせてもらえない。国、区が保障してくれる制度ができる事を望む。
- ・往診していただける医療機関があったら区報でも是非教えていただきたい。往診のシステムづくりをしていただきたい。
- ・往診してくれる医師が少ない。
- ・今後ガンの病気で死亡する人が増える事が考えられます。緩和ケアの病棟・ベット数の増加を切に望みます。
- ・区の健康診断の充実化(項目の拡大・検査内容の高密度化)を要望します。

区に対するなど要望(56件)

- ・気軽に区に要望が出せるとよい。
- ・健康な人への表彰制度を考えてほしい。
- ・高齢でも元気で頑張っている人達の事を考えてくださるよう、よろしくお願いします。
- ・高齢者が利用出来る施設、相談窓口等の場所、電話番号等をまとめた小冊子が欲しい。
- ・高齢者にわかりやすくポスターか広報誌に簡単に書いてください。
- ・区報や申請書は大きめの文字とわかりやすい文章をお願いします。
- ・介護の方法を教えてください。
- ・新宿区という特質性を考えた施策が必要だと思う。他区と比べて流入流出が多い区の特質。そのための広報、教育等が必要なのではないか。反面オフィスの町という点も見ることがある。

- それらを新宿区の将来像と組み合わせる必要があるのではないか。
- ・各部署が連携するシステムを強化することが重要だと思います。
 - ・いきいき体操をもっと広めて欲しい。
 - ・体力づくりの場を作ってください。
 - ・救急車がスムーズに入れる様、道路の角切を徹底させて下さい。

施策全般に関すること（42件）

- ・国とは別に新宿区として、福祉サービス方法等を考える必要がある。
- ・シビルミニマムの設定と自己負担原則のバランスが重要。
- ・区の財政の中で今後高齢化に伴う費用が増大することは、はっきりしていることであるので費用が増大しても施設、介護に必要な財政を行っていただきたいと考えています。
- ・区役所内でも不要となった仕事・事業をカットし、代わりにその人員や資金を高齢者のみならず弱い立場の人々の福祉向上にあてていただきたい。
- ・高齢者の経験等を生かせる仕事の紹介をして欲しい。
- ・毎日の安否確認をして頂けたら安心。
- ・「ちょっと困りごと援助サービス」の業務範囲が判りづらく、結果は要望に沿った業務ができないことがある。何とか応えられるような体制を望みたい。
- ・ボランティア活動の参加者に対する介護保険サービス利用時の自己負担額の軽減制度の検討。
- ・援助したり協力した人にスタンプなり点数を集め、自分が必要な時にサービスが受けられるような方式を取り入れれば介護保険料を値上げしなくてもすむのではないか。
- ・成年後見制度は、手続きの簡素化。費用の軽減を望む。
- ・認知症発症後の支援の充実。
- ・「シニアスポーツチャレンジ事業」を増やして欲しい。
- ・将来、要支援外でも手助けしていただけるような制度があったらよい。（体調不良の際の買物や高所の照明の取替など）

緊急時、災害時の対処（7件）

- ・視力障害のため緊急時の避難に不安があります。ガイドヘルパー以外にも支援する人が必要と考えます。
- ・地震、事故、火災等近くで起きた時が一番心配しています。
- ・地震や広域火災などの場合に弱者たる高齢者の保護を重視してもらいたい。
- ・夜間、健康状況が悪くなったり、災害があったりしたときの対応が不安。

その他のご意見（75件）

- ・高齢者も自分の事は、自分で出来るように最大限努力すべき。
- ・高齢者だからといって、公共の施設が過保護すぎる。
- ・高齢者の保護も大切ですが、未来ある子供、若者のケアにお金をまわすべきだと思います。
- ・高齢者よりも若い人により多くの区の予算を配分すべき。
- ・年金生活では苦しい。
- ・70才になると仕事もなし、これから不安いっぱいです。

- ・シルバーパスが有難い。
- ・インフルエンザ予防注射、お風呂、無料にて有難く思います。
- ・高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）の対応が非常によかった。
- ・トータルリフレッシュ教室は良い制度だと感謝しています。
- ・自転車専用道路がふえればいい。
- ・日用品等の買い物を配達してくれる店名を、食事を含め知りたい。
- ・民生委員がどなたかわかりません。
- ・時々民生委員の方がたずねてきてくれますので、今後もそのようにして欲しい。
- ・介護保険サービスを利用しないで済むよう日々健康な生活するよう支援した方が良い。
- ・サラリーマンは、何か地域でかかわろうとしてもきっかけをつかめない。
- ・健康や福祉サービスの情報を知らなかったことに気付きました。
- ・「高齢者総合相談センター」の存在は今回初めて知りました。各人の価値観、死生観を尊重することが肝要であり、緩和ケアの充実や尊厳死への本格的な対応が望まれます。
- ・区の学校開放のおかげで毎土曜日に仲間と汗を流させて頂き感謝してます。

